

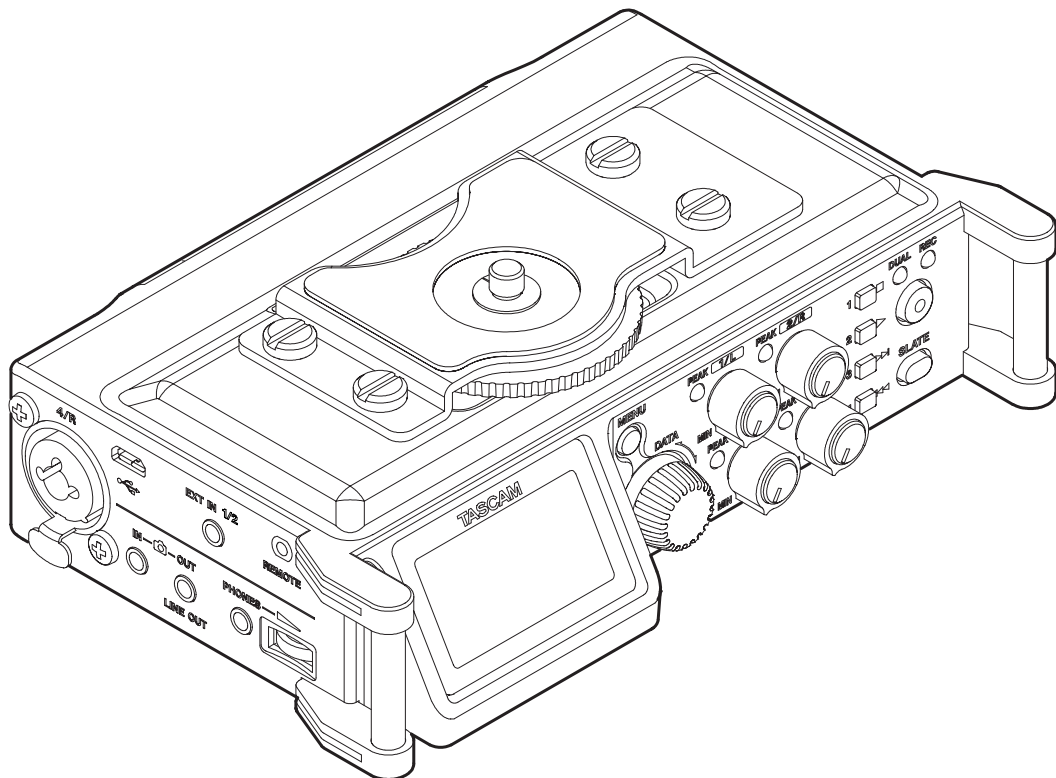
TASCAM

D01244101B

DR-70D

Linear PCM Recorder for DSLR

リファレンスマニュアル



目次

第1章 はじめに4	
本機の概要.....4	
本書の表記.....4	
SDカードについて.....4	
取り扱い上の注意.....4	
第2章 各部の名称と働き5	
フロントパネル.....5	
リアパネル.....5	
左サイドパネル.....6	
右サイドパネル.....7	
トップパネル.....7	
ボトムパネル.....8	
ホーム画面.....8	
録音画面.....9	
メニューの構成.....10	
メニューを使う.....10	
操作の基本.....11	
第3章 準備12	
電源の準備.....12	
電源について.....12	
単3形電池で使用する.....12	
ACアダプターで使用する（別売）.....12	
外付けバッテリーパックで使用する（別売）.....12	
USBバスパワーで使用する.....13	
電源をオンにする／オフ（スタンバイ状態）にする.....13	
電源をオンにする.....13	
電源をオフ（スタンバイ状態）にする.....13	
レジューム機能.....13	
日時を設定する.....14	
SDカードを挿入する／取り出す.....14	
挿入する.....14	
取り出す.....14	
SDカードのライトプロテクトスイッチについて.....14	
SDカードを使えるようにする.....15	
モニター用機器を接続する.....15	
モニターについて.....15	
モニターを選択する.....15	
出力ゲインを設定する.....15	
再生の音量を調節する.....16	
カメラと接続する／カメラに取り付ける.....16	
入力の設定をする.....16	
内蔵ステレオマイクで録音する.....16	
マイクを接続する.....16	
外部機器から録音する（LINE IN）.....17	
トップパネルのアクセサリシューを使う.....17	
第4章 録音18	
録音形式について.....18	
ファイルの保存先を設定する.....18	
録音するチャンネルを設定する.....18	
入力のバランスを調節する.....18	
入力レベルを調節する.....19	
録音する入力ソースを設定する.....20	
プラグインパワーについて.....20	
入力ゲインの選択をする.....20	
ファントム電源について.....21	
ファントム電源の電圧値の設定.....21	
リミッター機能を設定する.....22	
ローカットフィルターを設定する.....22	
各マイクの距離を補正する.....23	
各チャンネルの位相の設定.....23	
録音形式／ファイルフォーマット／ サンプリング周波数を設定する.....23	
録音する（MONO / STEREO / 2MIX録音）.....24	
録音を開始する.....24	
MONO録音時のファイル名.....24	
STEREO / 2MIX録音時のファイル名.....24	
録音中にファイルを切り換えて録音を続ける （トラックインクリメント）.....24	
録音中に手でトラックインクリメントする.....24	
録音中に自動でトラックインクリメントする.....24	
異なる入力レベルで 同時に2系統の録音をする（DUAL REC）.....25	
デュアル録音の設定をする.....25	
デュアル録音を開始する.....25	
デュアル録音時のファイル名.....25	
オートトーン機能を使う.....26	
オートトーン機能を設定する.....26	
オートトーンやスレートトーンの音量調節機能.....26	
スレートトーンを挿入する.....26	
スレートトーン挿入位置への移動.....26	
MSマイクを使う.....27	
録音時間について.....28	
第5章 ファイルやフォルダーの操作（BROWSE画面）29	
BROWSE画面内のナビゲーション.....29	
BROWSE画面内のアイコン表示.....29	
ファイル操作.....29	
フォルダー操作.....30	
新しいフォルダーを作る.....30	
第6章 再生31	
再生する.....31	
一時停止する.....31	
停止する.....31	
早戻し／早送りをする（サーチ）.....31	
再生するファイルを選択する（スキップ）.....31	
デュアル録音したファイルの再生.....31	
第7章 パソコンと接続する32	
パソコンへファイルを取り出す.....32	
パソコンからファイルを取り込む.....32	
パソコンとの接続を解除する.....32	
第8章 各種設定および情報表示33	
情報を見る（INFORMATION）.....33	
ファイル情報ページ（PROJECT）.....33	
カード情報ページ（CARD）.....33	
システム情報ページ（SYSTEM）.....33	
環境設定（SYSTEM）.....34	
電源のオートパワーセーブ機能の設定.....34	
バックライトの設定.....34	
ディスプレイのコントラスト調節.....34	
初期設定に戻す.....34	
SDカードをフォーマットする.....34	
電池の種類の設定.....34	
ファイル名の形式を設定する.....35	
ファイル名の形式.....35	
文字（WORD）の設定.....35	
数字（COUNT）の初期化設定.....35	

第9章 REMOTE端子を使う	36
フットスイッチを使う (TASCAM RC-3F)	36
フットスイッチを設定する	36
フットスイッチを使う	36
リモコンを使う (TASCAM RC-10)	36
リモコンを設定する	36
リモコンを使う	36
第10章 メッセージ	37
第11章 トラブルシューティング	38
第12章 仕様	39
定格	39
入出力定格	39
アナログオーディオ入出力定格	39
コントロール入出力定格	39
オーディオ性能	39
接続するパソコンの動作条件	40
一般	40
寸法図	41

第1章 はじめに

本機の概要

本機は、デジタル一眼レフカメラでの動画撮影現場に、高品質な録音環境を提供するデジタル一眼レフカメラに適したオーディオ入力と機能を搭載したレコーダーです。

- 記録メディアにSD / SDHC / SDXCカードを採用したコンパクトサイズのオーディオレコーダー
- TASCAM独自のHDDA (High Definition Discrete Architecture) マイクプリアンプ搭載による高音質録音
- 通常の2トラックステレオ録音に加えて、同時に最大4チャンネルの録音が可能
- 4チャンネルをステレオミックスして出力可能
- 1/L、2/R、3/L、4/Rは、それぞれ独立した録音レベル調整が可能
- 異なるレベルで2系統の録音を同時に行うことができるデュアル録音機能を搭載
- 44.1k/48k/96kHz、16/24ビットのリニアPCM (WAV形式) 録音が可能
- WAV録音形式としてBWF (Broadcast Wave Format) に対応
- ファントム電源付きXLRマイク (24V、48V) / LINE入力、TRSマイク / LINE入力を装備 (排他使用)、LINE入力時は+24dBu入力対応
- プラグインパワーマイク用電源対応のステレオミニジャック入力を装備ビデオマイクなどの高出力マイク入力対応 (最大入力レベル+10dBV)
- 編集時、動画ファイルとの同期に便利な、スレートトーン挿入機能 (自動 / マニュアル)
- 本機からの高音質な音声をデジタル一眼レフカメラで録音可能にするカメラ出力端子を装備
- デジタル一眼レフカメラからの音声を本機でモニターするとき便利なカメラ入力端子を装備
- MSマイクに対応したデコード機能を搭載
- 録音を継続したまま、任意の位置でファイルを更新できるトラックインクリメント機能
- 入力レベルが大きすぎる場合に、その部分だけ適度なレベルに自動的に調節するリミッター機能
- 低域ノイズの低減に便利なローカットフィルター
- 2系統の入力の距離差を解消するディレイ機能
- トーン入力した位置へ移動するトーンサーチ機能
- ファイル名の形式をユーザーワードまたは日付のどちらかに設定可能
- 電源をオフ (スタンバイ状態) にする前の再生位置を記憶しておくリジューム機能
- $\phi 3.5\text{mm}$ (1/8") ライン出力 / ヘッドホン出力端子
- 128 x 64のバックライト付きドットマトリックスタイプLCD
- Micro-Bタイプ USB2.0端子
- 単3形電池4本、ACアダプター (別売: TASCAM PS-P515U)、外付けバッテリーパック (別売: TASCAM BP-6AA) またはUSBバスパワー供給
- 三脚取り付け穴 (ボトム) とコインで脱着可能なデジタル一眼レフカメラ設置用スクリューアタッチメント (トップ) を装備
- 専用リモコン端子を装備 (別売のRC-10、RC-3Fに対応)

- 誤動作を防止するホールド機能を装備
- 操作面の保護のためのガードを前面左右に装備

本製品はアナログ・デバイス社製16/32ビット Blackfin®組み込みプロセッサを搭載し製品のデジタル信号処理と制御を行っています。
このBlackfin®プロセッサを搭載することにより製品の高性能化・省電力化を実現しています。

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機のボタン / 端子などを「MENUボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を“ON”のように“_”で括弧で表記します。
- 「SD/SDHC/SDXCメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- パソコンのディスプレイ上に表示される文字を《OK》のように《 》で括弧で表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

SDカードについて

本機では、SDカードを使って録音や再生を行います。使用できるカードは、64MB ~ 2GBのSDカード、4GB ~ 32GBのSDHCカード、および48GB ~ 128GBのSDXCカードです。

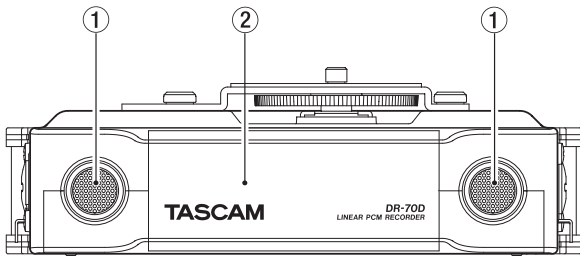
TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されていますので、ご参照ください。もしくは、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

取り扱い上の注意

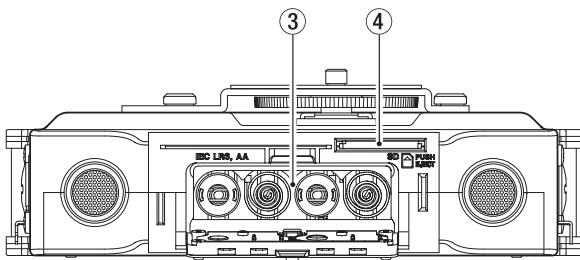
SDカードは、精密にできています。SDカードの破損を防ぐため、取り扱いに当たって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高いあるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を載せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- 録音、再生状態やデータ転送などアクセス中に、抜き差しを行わないこと。
- 持ち運ぶ際、メモリーカードケースなどに入れて運ぶこと。

フロントパネル

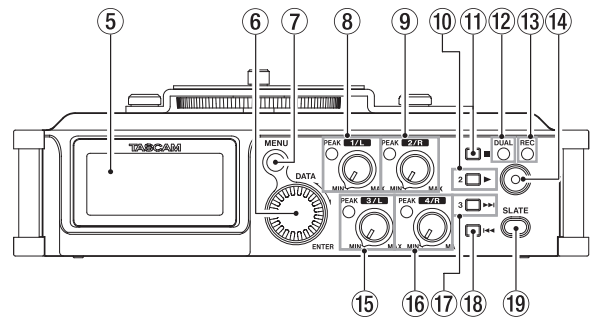


- ① 内蔵ステレオマイク
エレクトレットコンデンサータイプの無指向性ステレオマイクです。
- ② フロントカバー
電池ケースとSDカードスロットのカバーです。



- ③ 電池ケース
本機の電源になる電池（単3形電池、4本）を収納するケースです。（→ 12ページ「単3形電池で使用する」）
- ④ SDカードスロット
SDカードを挿入するカードスロットです。

リアパネル



- ⑤ ディスプレー
各種情報を表示します。
- ⑥ DATAダイヤル (ENTER)
このダイヤルを回して、各種設定画面での項目の選択や値の変更を行います。また、ファイルの再生位置の移動にも使用します。このダイヤルを押して、各種設定画面で選択されている項目を決定する、または確認のポップアップメッセージに対して「YES」と答えるときに使います。
ホーム画面表示中にDATAダイヤルを回すことで、ファイルに挿入したスレートトーン的位置に移動します。スレートトーンが挿入されていない場合は、次のファイルに移動します。停止中にこのダイヤルを長押しすることで、モニター音を切り換えます。
- ⑦ MENUボタン
ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、「MENU」画面が表示されます。
各種設定画面表示中に押すとメニュー階層を一段階戻り、「MENU」画面表示中に押すとホーム画面に戻ります。
- ⑧ 1/Lつまみ / PEAKインジケータ
1/Lつまみを使って、左サイドパネルの1/L端子からの入力レベルを調節します。
入力レベルが大きくなって歪む直前になると、1/LのPEAKインジケータが点灯します。マイク入力時は、アナログ回路で歪んだ場合にも点灯します。ライン入力時は、アナログ回路で歪んだ場合でも点灯しません。（→ 19ページ「入力レベルを調節する」）
- ⑨ 2/Rつまみ / PEAKインジケータ
2/Rつまみを使って、左サイドパネルの2/R端子からの入力レベルを調節します。
入力レベルが大きくなって歪む直前になると、2/RのPEAKインジケータが点灯します。マイク入力時は、アナログ回路で歪んだ場合にも点灯します。ライン入力時は、アナログ回路で歪んだ場合でも点灯しません。（→ 19ページ「入力レベルを調節する」）
- ⑩ 2/▶ ボタン
ホーム画面で停止中に押すと、再生を始めます。
"BROWSE"画面で、ファイルまたはフォルダーを選択した状態でこのボタンを押すと、ホーム画面に戻り、そのファイルまたはフォルダーの最初から再生します。
"BASIC"画面および"INPUT"画面を表示中に押すと、画面内の設定項目について設定するチャンネルを選択します。

第2章 各部の名称と働き

11 1/■ボタン

再生中にこのボタンを押すと、その位置で再生を停止します（一時停止）。一時停止中にこのボタンを押すと、その再生ファイルの先頭に戻ります。

録音中にこのボタンを押すと、録音を停止します。

"BASIC" 画面および "INPUT" 画面を表示中に押すと、画面内の設定項目について設定するチャンネルを選択します。

各種設定画面を表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。また、各種設定画面の操作では、確認のポップアップメッセージに対して「NO」と答えるときに使います。

12 DUALインジケーター

デュアル録音モード中に、橙色に点灯します。

13 RECインジケーター

録音中に、赤色に点灯します。

14 録音(●)ボタン

停止中に押すと、録音を開始します。

録音中に押すと、録音を停止します。

15 3/Lつまみ / PEAKインジケーター

3/Lつまみを使って、左サイドパネルの3/L端子からの入力レベルを調節します。

入力レベルが大きくなって歪む直前になると、3/LのPEAKインジケーターが点灯します。マイク入力時は、アナログ回路で歪んだ場合にも点灯します。ライン入力時は、アナログ回路で歪んだ場合でも点灯しません。（→ 19ページ「入力レベルを調節する」）

16 4/Rつまみ / PEAKインジケーター

4/Rつまみを使って、右サイドパネルの4/R端子からの入力レベルを調節します。

入力レベルが大きくなって歪む直前になると、4/RのPEAKインジケーターが点灯します。マイク入力時は、アナログ回路で歪んだ場合にも点灯します。ライン入力時は、アナログ回路で歪んだ場合でも点灯しません。（→ 19ページ「入力レベルを調節する」）

17 3/▶▶ボタン

停止中または再生中にこのボタンを押すと、次のファイルにスキップします。

押し続けると、早送りサーチを行います。

"BASIC" 画面および "INPUT" 画面を表示中に押すと、画面内の設定項目について設定するチャンネルを選択します。

各種設定画面を表示中に、画面内のカーソルを右に移動します。

"BROWSE" 画面では、階層を進みます。ファイルが選択されているときは、ファイルをロードしてホーム画面に戻り停止します。

18 4/◀◀ボタン

再生中、またはファイルの途中で停止しているときにこのボタンを押すと、再生ファイルの先頭に戻ります。

ファイルの先頭で停止しているときに押すと、手前のファイルにスキップします。

押し続けると、早戻しサーチを行います。

"BASIC" 画面および "INPUT" 画面を表示中に押すと、画面内の設定項目について設定するチャンネルを選択します。

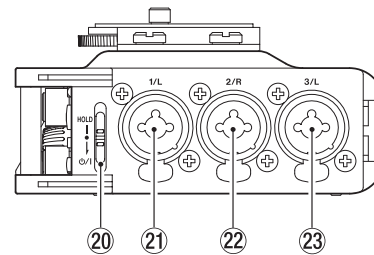
各種設定画面を表示中に、画面内のカーソルを左に移動します。

"BROWSE" 画面では、階層を戻ります。

19 SLATEボタン

録音中にこのボタンを長押しすると、スレートトーンを録音します。（→ 26ページ「スレートトーンを挿入する」）

左サイドパネル



メモ

外部機器のプラグを接続するときや使用中には、プラグに無理な力を加えないでください。特に標準→ミニ変換プラグを使う場合は思わぬ力が加わり、機器を破損してしまう恐れがありますのでご注意ください。

20 HOLD / OFFスイッチ

下側（矢印の方向）にスライドし続けることで、電源のオン/オフの切り換えを行います。

上側にセットするとホールド機能が働きます。ホールド中は、全てのボタン操作を受け付けません。

21 1/L端子 (XLR / TRS)

XLRバランスタイプのアナログマイク入力と、TRS標準ジャックのバランスアナログ入力端子です。

XLR (1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)

TRS (Tip : HOT, Ring : COLD, Sleeve : GND)

22 2/R端子 (XLR / TRS)

XLRバランスタイプのアナログマイク入力と、TRS標準ジャックのバランスアナログ入力端子です。

XLR (1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)

TRS (Tip : HOT, Ring : COLD, Sleeve : GND)

23 3/L端子 (XLR / TRS)

XLRバランスタイプのアナログマイク入力と、TRS標準ジャックのバランスアナログ入力端子です。

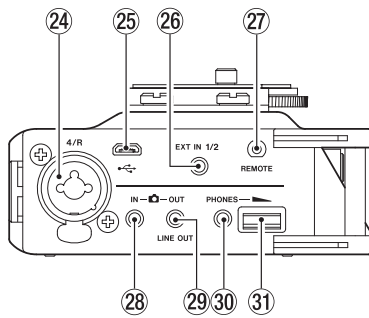
XLR (1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)

TRS (Tip : HOT, Ring : COLD, Sleeve : GND)

注意

- これらの1/L / 2/R / 3/L / 4/R端子にライン機器を接続する場合は、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- 1/L / 2/R / 3/L / 4/R端子にコンデンサーマイクを接続する、または接続しているコンデンサーマイクを外すときは、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でマイクを接続したり接続を外したりすると、マイクおよび本機の故障の原因になります。
- ファントム電源が供給されているXLRコネクタにアンバランスのダイナミックマイクを接続しないでください。マイクおよび本機の故障の原因になります。

右サイドパネル



メモ

外部機器のプラグを接続するときや使用中には、プラグに無理な力を加えないでください。特に標準→ミニ変換プラグを使う場合は思わぬ力が加わり、機器を破損してしまう恐れがありますのでご注意ください。

24 4/R端子 (XLR / TRS)

XLRバランスタイプのアナログマイク入力と、TRS標準ジャックのバランスアナログ入力端子です。

XLR (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)

TRS (Tip : HOT、Ring : COLD、Sleeve : GND)

25 Micro USB端子

付属のUSBケーブルを使って、パソコンと接続するためのUSBポートです。(→ 32ページ「第7章 パソコンと接続する」)
付属のUSBケーブルまたは別売の専用ACアダプター (TASCAM PS-P515U) で電源を供給することができます。

注意

パソコンとの接続は、USBハブを経由せずに直接接続してください。

26 EXT IN 1/2端子 (φ3.5mm ステレオミニジャック)

ステレオミニジャックのマイク入力または外部入力端子です。プラグインパワーに対応しています。

TRS (Tip : HOT、Ring : COLD、Sleeve : GND)

27 REMOTE端子 (φ2.5mm TRSジャック)

別売の専用フットスイッチ (TASCAM RC-3F) または専用ワイヤードリモコン (TASCAM RC-10) を接続します。リモコンによる再生、停止などの操作が可能になります。(→ 36ページ「第9章 REMOTE端子を使う」)

28 IN端子 (φ3.5mm ステレオミニジャック)

カメラの音声出力端子に接続します。

カメラ側の接続端子に関しては、カメラの取扱説明書をご覧ください。(→ 16ページ「カメラと接続する／カメラに取り付ける」)

29 OUT / LINE OUT端子 (φ3.5mm ステレオミニジャック)

ステレオミニジャックケーブルを使用して、カメラの外部入力端子または外部機器のライン入力端子と接続します。

この端子から出力される音量は、“MONITOR SETTING”画面の“OUTPUT LEVEL”項目で調節します。

カメラ側の接続端子に関しては、カメラの取扱説明書をご覧ください。(→ 16ページ「カメラと接続する／カメラに取り付ける」)

30 PHONES端子 (φ3.5mm ステレオミニジャック)

ステレオヘッドホン接続用のステレオミニジャックです。PHONESボリュームで音量を調節します。

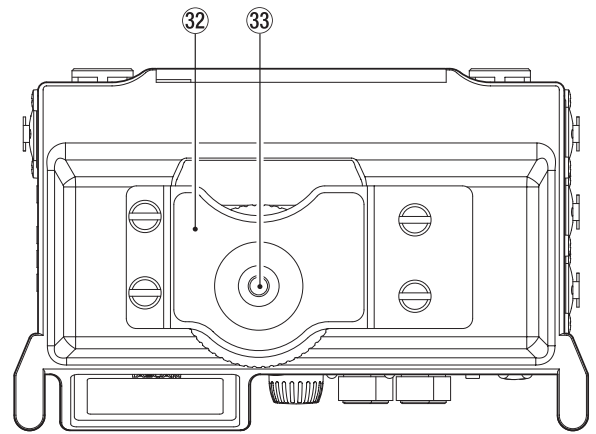
31 PHONESボリューム

PHONES端子から出力される音量を調節します。

注意

ヘッドホンを接続する前には、PHONESボリュームの音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

トップパネル

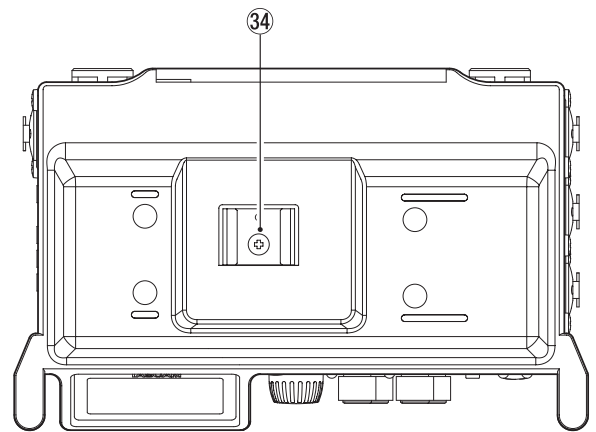


32 デジタル一眼レフカメラ取り付け用ブラケット

デジタル一眼レフカメラ取り付け用ネジを使用するためのブラケットです (本体取り付け済み)。
ブラケットを使用しない場合は、4本の固定ネジをコインなどで取り外すことができます。

33 デジタル一眼レフカメラ取り付け用ネジ (1/4インチ)

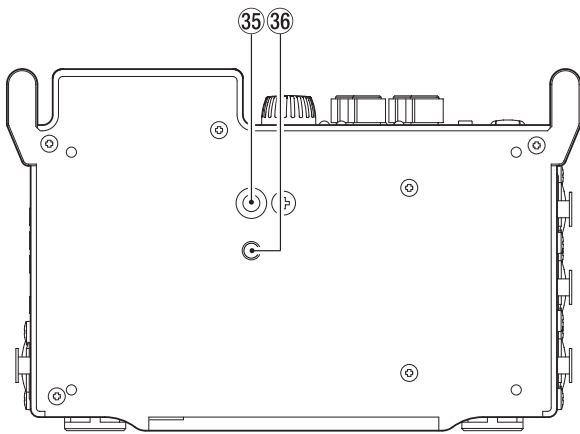
本機をカメラ下部やカメラ取り付け用ネジに対応したラックなどに取り付けるときに使用します。



34 アクセサリーシュー

付属のデジタル一眼レフカメラ取り付け用ブラケットを外すと、アクセサリーシューを使用することができます。

ボトムパネル



③⑤ 三脚取り付け用穴 (1/4インチ)

本体に三脚を取り付けることができます。

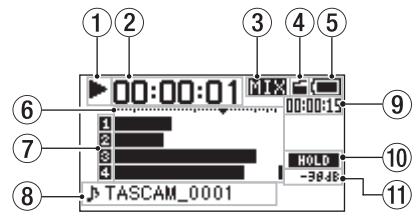
注意

- 本体の落下を防ぐため、三脚またはマイクスタンド各部のネジを確実に締めてください。
- 三脚またはマイクスタンドに本体を取り付けて使用する場合は、三脚またはマイクスタンドを水平な場所に置いてください。
- 三脚によっては、ネジの規格の違いにより、直接取り付けられない場合があります。その場合は、市販の変換アダプターをご使用ください。

③⑥ ビデオボス挿入穴 (VIDEO PIN)

ビデオボス付きの三脚を使用時にビデオボスを、この穴に合わせて三脚に取り付けします。

ホーム画面



① レコーダーの状態表示

レコーダーの動作状況をアイコン表示します。

表示	内容
■	停止中
	一時停止中
▶	再生中
▶▶	早送り中
◀◀	早戻し中
▶▶	次のファイルの先頭にスキップ
◀◀	現在または手前のファイルの先頭にスキップ

② 経過時間表示

現在のファイルの経過時間 (時 : 分 : 秒) を表示します。

③ モニターモード表示

現在のモニター音の種類が表示されます。

表示	内容
MIX	CH1-4のミックス音、デュアル録音モードのメインファイル
CAM	📷 IN端子からの入力音

④ オートトーン機能の設定状態表示

オートトーン機能のオン/オフ状態をアイコン表示します。(→ 26ページ「オートトーン機能を使う」)

非表示：オートトーンオフ

■ : オートトーンオン

⑤ 電源供給の状態表示

電池供給時は、電池アイコンを表示します。

電池残量に応じて、10段階で表示されます (“” → “” → “”)。

目盛り表示がなくなると “” が点滅し、電池切れのためにまもなく電源がオフ (スタンバイ状態) になります。

別売の専用ACアダプター (TASCAM PS-P515U) 使用時およびUSBバスパワー供給時は、“” を表示します。

メモ

残量がなくなる前でも録音など消費電力の大きい動作を行おうとすると、“Battery Low” の警告のポップアップメッセージが出る場合があります。

⑥ レベルメーター

入力音または再生音のレベルを表示します。

⑦ 録音の設定状態表示

録音のオン/オフ状態を表示します。(→ 18ページ「録音するチャンネルを設定する」)

1 : 録音の設定オフ

1 : 録音の設定オン

- ⑧ **プロジェクト名表示**
再生中のプロジェクト名を表示します。
プロジェクトとは、録音／再生するファイルの一群のことをさします。
- ⑨ **残量時間表示**
現在のファイルの残量時間（時：分：秒）を表示します。
停止中は、SDカードの残時間（時：分：秒）を表示します。
- ⑩ **HOLD / ㊟ / | スイッチの設定状態表示**
HOLD / ㊟ / | スイッチの設定状態を表示します。
HOLD : ホールドスイッチオフ
HOLD : ホールドスイッチオン
- ⑪ **ピーク値のデシベル (dB) 表示**
一定時間ごとに、その期間の再生レベルの最大値を、デシベル表示します。

- ⑦ **録音の設定状態表示**
録音のオン／オフ状態を表示します。(→ 18ページ「録音するチャンネルを設定する」)
1 : 録音の設定オフ
1 : 録音の設定オン
- ⑧ **プロジェクト名表示**
録音するファイルのプロジェクト名を表示します。
- ⑨ **録音残時間**
設定した録音モード、サンプリング周波数、録音フォーマットにおけるSDカードの残時間（時：分：秒）を表示します。
- ⑩ **ローカットフィルターオン／オフ状態表示**
ローカットフィルターのオン／オフ状態を表示します。(→ 22ページ「ローカットフィルターを設定する」)
CH1 / CH2 / CH3 / CH4のいずれかのローカットフィルターが“40Hz” / “80Hz” / “120Hz” / “180Hz” / “220Hz”に設定されているときにアイコンを反転表示します。

LOWCUT : ローカットフィルターオフ
LOWCUT : ローカットフィルターオン

- ⑪ **リミッター機能状態表示**
リミッター機能の設定状態を表示します。(→ 22ページ「リミッター機能を設定する」)
CH1 / CH2 / CH3 / CH4のいずれかのリミッターが“MONO”または“LINK”に設定されているときにアイコンを反転表示します。

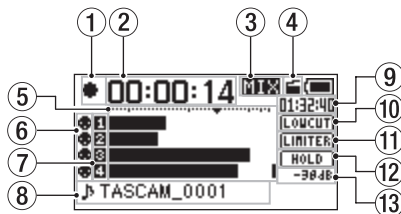
LIMITER : リミッターオフ
LIMITER : リミッターオン

- ⑫ **HOLD / ㊟ / | スイッチの設定状態表示**
HOLD / ㊟ / | スイッチの設定状態を表示します。

HOLD : ホールドスイッチ設定オフ
HOLD : ホールドスイッチ設定オン

- ⑬ **ピーク値のデシベル (dB) 表示**
入力レベルのピーク値をデシベル表示します。

録音画面



- ① **レコーダー動作状態表示**
レコーダーの動作状況をアイコン表示します。
- | 表示 | 内容 |
|----|-----|
| ● | 録音中 |
- ② **録音経過時間**
録音ファイルの経過時間（時：分：秒）を表示します。
- ③ **モニターモード表示**
現在のモニター音の種類が表示されます。
- | 表示 | 内容 |
|-----|-------------------------------|
| MIX | CH1-4のミックス音、デュアル録音モードのメインファイル |
| CAM | 📷 IN端子からの入力音 |
- ④ **オートトーン機能の設定状態表示**
オートトーン機能のオン／オフ状態をアイコン表示します。(→ 26ページ「オートトーン機能を使う」)
非表示：オートトーンオフ
1 : オートトーンオン
- ⑤ **レベルメーター**
入力音のレベルを表示します。
目盛りには、-16dBの位置に入力レベル調整時の目印となる“▼”マークがあります。
- ⑥ **ファントム電源の設定状態表示**
ファントム電源のオン／オフ状態を表示します。(→ 21ページ「ファントム電源について」)
非表示：ファントム電源オフ
1 : ファントム電源オン

第2章 各部の名称と働き

メニューの構成

MENUボタンを押すと、“MENU”画面が表示されます。
メニュー項目は、以下の通りです。

メニュー項目	機能	参照ページ
BASIC	録音の設定を行います。	→ 18ページ → 18ページ → 19ページ → 20ページ → 20ページ
MONITOR	モニター出力の設定を行います。	→ 16ページ → 15ページ
INPUT	入力の設定を行います。	→ 20ページ → 22ページ → 22ページ → 23ページ → 23ページ
RECORD	録音フォーマットの設定を行います。	→ 23ページ → 25ページ
SLATE	スレートトーンの設定を行います。	→ 26ページ → 26ページ
MIC	マイクの設定を行います。	→ 21ページ → 27ページ
BROWSE	カード内のファイル、フォルダーの操作をします。	→ 30ページ
OTHERS	サブメニュー項目を表示します。	

“MENU”画面で“OTHERS”項目を選択すると、“OTHERS”画面が表示されます。サブメニュー項目は、以下の通りです。

サブメニュー項目	機能	参照ページ
SYSTEM	本機の環境設定を行います。	→ 34ページ
BATTERY	電池の種類の設定を行います。	→ 34ページ
INFORMATION	ファイル情報、SDカード情報、システム情報を表示します。	→ 33ページ
FILE NAME	ファイル名を設定をします。	→ 35ページ
DATE/TIME	日時、時刻の設定をします。	→ 14ページ
REMOTE	別売の専用フットスイッチ (TASCAM RC-3F)、または別売のワイヤードリモコン (TASCAM RC-10) の設定を行います。	→ 36ページ → 36ページ

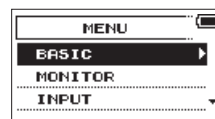
注意

録音中は、“MENU”画面は表示されません。

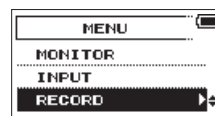
メニューを使う

録音の設定を変更することを例に説明します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。

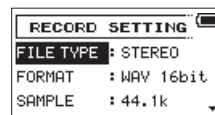


2. DATAダイヤルを回してメニュー項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルまたは3/▶▶ボタンを押すと各種設定画面に移動します。



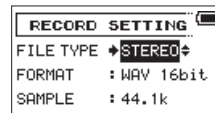
[RECORD項目選択時]

3. DATAダイヤルを回して、設定する項目を選択（反転表示）します。



[FILE TYPE項目選択時]

4. DATAダイヤルまたは3/▶▶ボタンを押すと、設定内容にカーソルが移動します（反転表示）。



5. DATAダイヤルを回して、設定を変更します。
6. 同じメニュー内で別の項目を設定する場合は、DATAダイヤルまたは4/◀◀ボタンを押します。設定項目選択状態に戻りますので、DATAダイヤルを回して設定したい項目を選択（反転表示）します。
7. 必要に応じて、手順3.～6.を繰り返して、各項目を設定します。
8. MENUボタンを押すと、“MENU”画面（または“OTHERS”画面）に戻ります。
1/■ボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

メモ

“BASIC”画面および“INPUT”画面を表示中は、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

操作の基本

各種設定画面の操作には、次の操作子を使用します。

MENUボタン

“MENU”画面を呼び出します。

1/■ボタン

各設定画面を表示中に1/■ボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。確認のポップアップメッセージに対して「NO」を選択するときにも使用します。

DATAダイヤル

DATAダイヤルを回して、各種設定画面での項目の選択や値の変更を行います。また、ファイルの再生位置の移動にも使用します。

DATAダイヤルを押して、各種設定画面で選択されている項目を決定する、または確認のポップアップメッセージに対して「YES」と答えるときに使います。

3/▶▶ボタン

設定画面内のカーソル（反転表示部）を右に移動するときや、“BROWSE”画面で階層を進むときに使用します。

4/◀◀ボタン

設定画面内のカーソル（反転表示部）を左に移動するときや、“BROWSE”画面で階層を戻るときに使用します。

第3章 準備

電源の準備

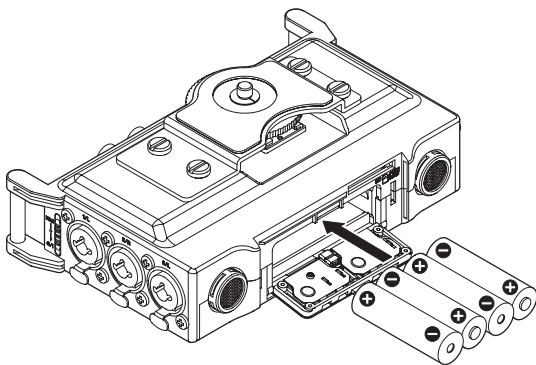
電源について

本機は、単3形電池4本、付属のUSBケーブルを使って（USBバスパワー供給、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）接続、別売の専用外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）接続）、本機に電源を供給します。

本機は、単3形アルカリ乾電池および単3形ニッケル水素電池も使用することができます。

単3形電池で使用する

本機のフロントカバーと電池ケース蓋を開き、電池ケース内の⊕と⊖の表示に合わせて単3形電池を4本セットして、電池ケース蓋とフロントカバーを閉じます。



単3形電池で使用する時、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量を識別するために、電池の種類を設定してください。（→34ページ「電池の種類の設定」）

注意

- 単3形マンガン乾電池は、使用できません。
- 本機で単3形ニッケル水素電池を充電することはできません。市販の充電器をご使用ください。

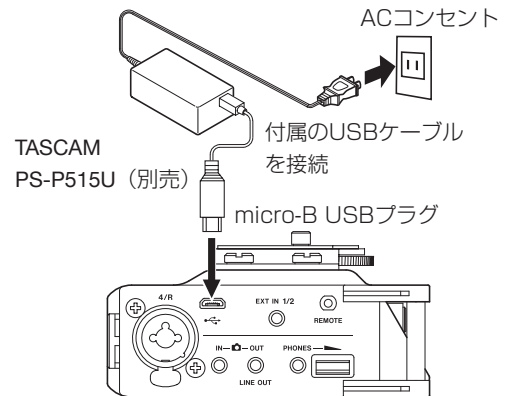
メモ

コンデンサーマイクヘファントム電源を供給した場合は、電力を多く消費します。単3形電池（ニッケル水素電池またはアルカリ乾電池）で供給しているときに、コンデンサーマイクを使用すると稼働時間が短くなります。

長時間稼働させたい場合は、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）や外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）を使って、本機に電源を供給してご使用ください。

ACアダプターで使用する（別売）

図のように、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）と本機のUSB端子を付属のUSBケーブルで接続します。



メモ

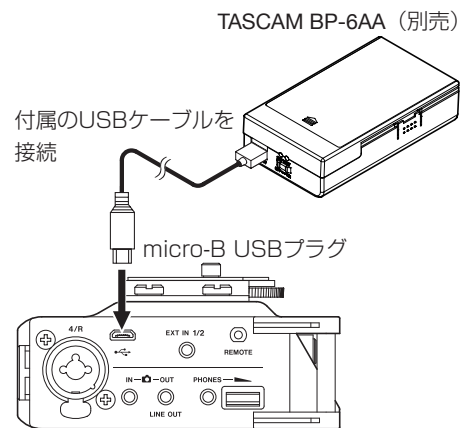
電池とACアダプターの両方をセットした場合は、ACアダプターから電源が供給されます。

注意

- 必ず別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）をご使用ください。それ以外のものを使用すると故障、火災、感電の原因となります。
- 本体をACアダプターに近づけて使うと、マイク収録時にノイズが発生する場合があります。このようなときには、ACアダプターを本体から離してお使いください。

外付けバッテリーパックで使用する（別売）

図のように、別売の専用外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）と本機のUSB端子を付属のUSBケーブルで接続します。詳しい使い方は、BP-6AAの取扱説明書をご覧ください。



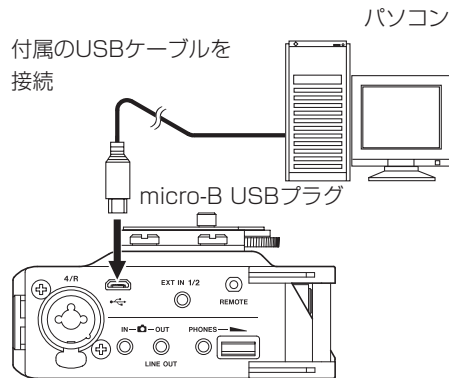
注意

BP-6AAの電池残量は、本機からは検知できません。本機に電池を内蔵しないでBP-6AAだけで動作させていると、BP-6AAの電池残量がなくなったときに突然動作が停止する場合があります。

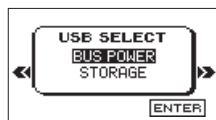
トラブルを防止するために、本機には残量が十分にある電池を内蔵してからBP-6AAを接続して使用するようになしてください。

USBバスパワーで使用する

図のように、パソコンと本機を付属のUSBケーブルを使って接続します。



電源がオンのときにUSB接続する、またはUSB接続後に電源をオンにすると、USBバスパワーで供給するか、またはパソコンとUSB接続するかを選択する“USB SELECT”画面が表示されます。



DATAダイヤル回して“BUS POWER”を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押すと電源がUSB端子から供給され、ホーム画面が表示されます。

メモ

電池をセットした状態でUSB接続した場合は、USBから電源が供給されます（USBバスパワー優先）。

注意

- パソコンのUSBバスパワーの仕様によっては、USBケーブルで接続しても本機が動作しないことがあります。その場合は、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）をご使用ください。
- 本機は、パソコン本体の省電力機能、スリープ機能などには対応していません。パソコンからのUSBバスパワーで本機を使用する場合は、必ずそれらの機能をオフにしてください。

電源をオンにする／オフ（スタンバイ状態）にする

注意

- 別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）使用時、およびパソコンとのUSBバスパワー接続で供給しているときは、電源をオフにするとスタンバイ状態になります。
- 本機の電源のオン／オフ（スタンバイ状態）は、本機に接続しているモニターシステムのボリュームを絞った状態で行ってください。
- 電源のオン／オフ（スタンバイ状態）時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによっては、スピーカーや聴覚を損傷する恐れがあります。

電源をオンにする

電源がオフ（スタンバイ状態）時に、**HOLD** / **⏻** / **|** スイッチを「**⏻** / **|**」方向にスライドし、“TASCAM DR-70D”（起動画面）が表示されたら離します。

本機が起動してホーム画面が表示されます。



[起動画面]



[ホーム画面]

注意

初回電源投入時（および電池がない状態でしばらく置いたため内蔵時計がリセットされたとき）には、起動画面が表示される前に、日時を設定する“DATE/TIME”画面が表示されます。（→ 14ページ「日時を設定する」）

電源をオフ（スタンバイ状態）にする

電源オン時に、**HOLD** / **⏻** / **|** スイッチを「**⏻** / **|**」方向にスライドし、“LINEAR PCM RECORDER”と表示されたら離します。シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がオフ（スタンバイ状態）になります。

注意

電源をオフ（スタンバイ状態）にするときは、必ず**HOLD** / **⏻** / **|** スイッチで行ってください。
電源がオンのときに電池を外したり、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）で使用しているときに電源コードを抜いたり、USBバスパワーで使用しているときにUSBケーブルを抜くと録音データや設定などが全て失われます。なお、失われたデータや設定は、復活することができません。

レジューム機能

本機は、レジューム機能を搭載しており、電源をオンにしたときに、前回電源をオフ（スタンバイ状態）にしたときの位置（時間）にロケートされます。

電源投入後、**2/▶** ボタンを押すと電源をオフ（スタンバイ状態）にした時点のファイルの再生位置（時間）から再生することが可能です。

メモ

この内容は、SDカードに記録されているため、カードを入れ換える、またはフォーマットした場合には、レジュームできません。

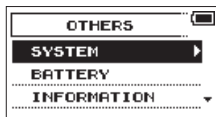
日時を設定する

本機は、本体内の時計を基に、録音したファイルに日時を記録します。

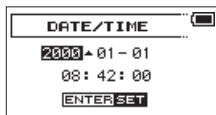
1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。



2. DATAダイヤルを回して“OTHERS”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。“OTHERS”画面が表示されます。



3. DATAダイヤルを回して“DATE/TIME”項目を選択(反転表示)し、DATAダイヤルを押します。“DATE/TIME”画面が表示されます。



4. DATAダイヤル、4/◀◀ボタンまたは3/▶▶ボタンを押して、カーソル（反転表示部）を移動し、DATAダイヤルを回して値を変更します。
5. MENUボタンを押すと確定し、“OTHERS”画面に戻ります。

メモ

ここで設定した日付をファイル名に付けることができます。（→35ページ「ファイル名の形式を設定する」）

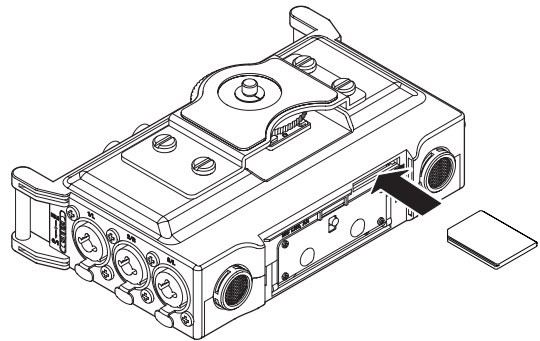
注意

日時の設定は、電池の少ない状態または別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）の接続がない状態、USBバスパワーで動作していない状態では、数分しか保持しません。電池でお使いの場合は、完全に電池がなくなる前に電池交換することをお勧めします。

SDカードを挿入する／取り出す

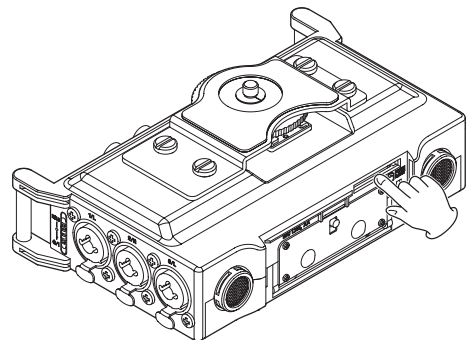
挿入する

1. フロントパネルのフロントカバーを開きます。
2. SDカードを図の方向にカチッと音がするまで差し込みます。



取り出す

1. フロントパネルのフロントカバーを開きます。
2. SDカードを軽く押し込んでから放すと手前に出てきます。

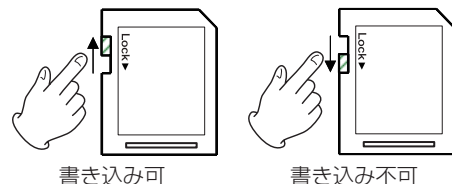


注意

- 録音、再生などカードアクセス中に、本機からSDカードを取り出さないでください。
- パソコンとUSB接続中、本機からSDカードを取り出さないでください。
- 使用できるSDカードは、SD/SDHC/SDXC規格に対応したカードです。
- TASCAMのウェブサイト（<http://tascam.jp/>）には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。

SDカードのライトプロテクトスイッチについて

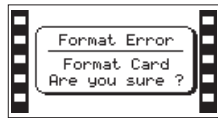
SDカードには、プロテクト（書き込み防止）スイッチが付いています。プロテクトスイッチを [LOCK] の方向へスライドすると、ファイルの記録や編集ができなくなります。録音や削除などを行う場合は、プロテクト（書き込み防止）スイッチを解除してください。



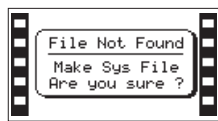
SDカードを使えるようにする

本機でSDカードを使えるようにするために、本機で初期化する必要があります。

1. SDカードが挿入されていることを確認し、電源をオンにします。
2. 新しいカード、または本機以外でフォーマットされたカードを挿入したとき、以下のようなポップアップメッセージが表示されます。



[SD / SDHCカードの場合]



[SDXCカードの場合]

3. DATAダイヤルを押すと、初期化を開始します。

注意

フォーマットを行うと、SDカード上のデータは全て消去されます。

4. 初期化が終了するとホーム画面に戻ります。また、本機ではいつでもフォーマットを行うことができます。

注意

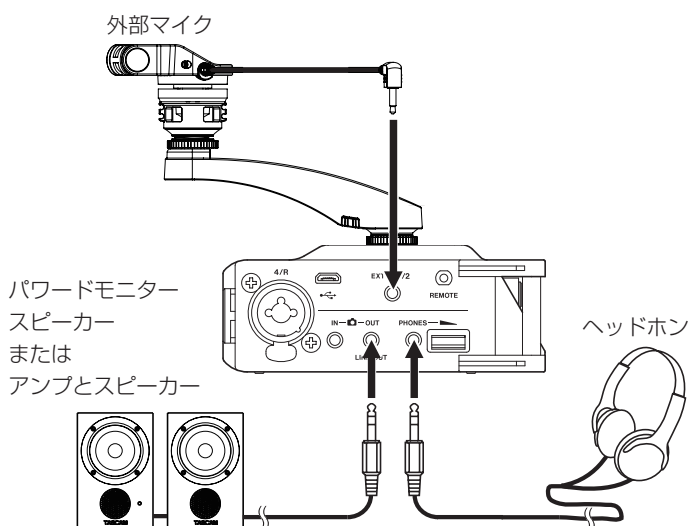
フォーマットは、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）を使用するか、パソコンとのUSB/バスパワー接続状態で供給しているときに行うか、電池の残量が十分な状態で行ってください。

モニター用機器を接続する

外部ステレオマイクを接続する場合は、右サイドパネルのEXT IN 1/2端子に接続してください。

ヘッドホンで聴く場合は、PHONES端子にヘッドホンを接続してください。

外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカー）で聴く場合は、CAM OUT / LINE OUT端子に外部モニターシステムを接続してください。

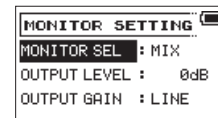


モニターについて

停止中に各入力音をヘッドホンなどでモニターすることができます。また、あらかじめ本機のCAM IN端子とカメラのライン出力端子を接続しておくことで、カメラ側で録音される音を本機で確認することができます。

モニターを選択する

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“MONITOR”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“MONITOR SETTING”画面が表示されます。
3. DATAダイヤルを回して“MONITOR SEL”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
4. DATAダイヤルを回してモニター音を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して確定します。



選択肢

- “CAM” : CAM IN端子からの入力音
- “MIX”（初期値） : 各入力のミックス音

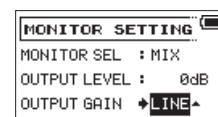
5. モニター先の選択が終了したら、1/■ボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

- 停止中にDATAダイヤルを長押しすることでも切り換えることができます。
- “CAM” 選択中はPHONES端子から入力音をモニターできますが、表示されるレベルメーターは現在の録音モードに応じた入力音に対する表示になります。

出力ゲインを設定する

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“MONITOR”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“MONITOR SETTING”画面が表示されます。
3. DATAダイヤルを回して“OUTPUT GAIN”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
4. DATAダイヤルを回してCAM OUT / LINE OUT端子の出力ゲインを設定し、DATAダイヤルを押して確定します。



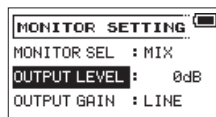
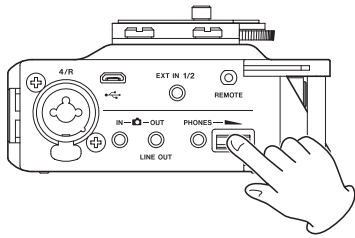
選択肢

- “LINE”（初期値） : 外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカー）に出力するための出力ゲインに設定
- “CAM” : カメラに出力するための出力ゲインに設定

5. 出力ゲインの設定が終了したら、1/■ボタンを押してホーム画面に戻ります。

再生の音量を調節する

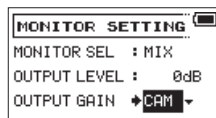
PHONES端子から出力される音量はPHONES端子ボリュームで、**OUT** / **LINE OUT**端子から出力される音量は“**MONITOR SETTING**”画面の“**OUTPUT LEVEL**”で調整します。



カメラと接続する / カメラに取り付ける

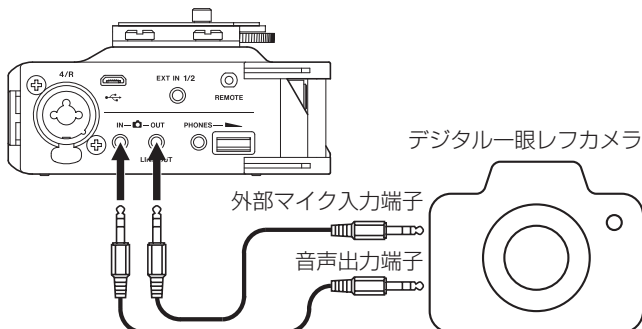
本機の音声をカメラに出力する、またはカメラからの音声を本機でモニターできるようにするためには、本機とデジタル一眼レフカメラを市販のφ3.5mmステレオミニプラグケーブルを使用して接続する必要があります。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“MONITOR”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。“MONITOR SETTING”画面が表示されます。
3. DATAダイヤルを回して“OUTPUT GAIN”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
4. DATAダイヤルを回して“CAM”を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して確定します。



選択肢：“LINE”（初期値）、“CAM”

5. 本機の音声をカメラで録音したい場合には、右サイドパネルの**OUT**端子とカメラの外部マイク入力端子を接続してください。
カメラからの音声を本機に入力してヘッドホンからモニターしたい場合には、右サイドパネルの**IN**端子とカメラの音声出力端子を接続してください。



メモ

カメラ側の接続端子に関しては、カメラの取扱説明書をご覧ください。

6. カメラに出力される音量は、“MONITOR SETTING”画面の“OUTPUT LEVEL”項目で調整します。

メモ

“MONITOR SETTING”画面の“OUTPUT LEVEL”項目をいっぱいにしても音量が足りない場合は、“MONITOR SETTING”画面の“OUTPUT GAIN”項目を“LINE”にして音量調整をしてください。

7. 本機にカメラをマウントする場合は、トップパネルのカメラ取り付け用ネジでカメラに取り付けます。

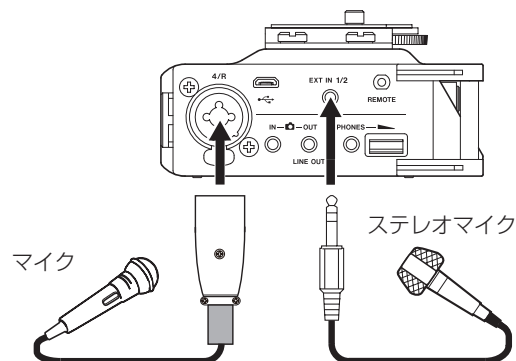
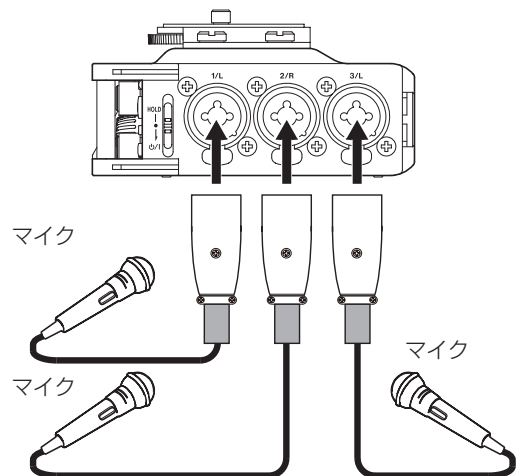
入力の設定をする

内蔵ステレオマイクで録音する

内蔵ステレオマイクを音源の方向へ向け、振動の少ない、安定した場所に設置してください。

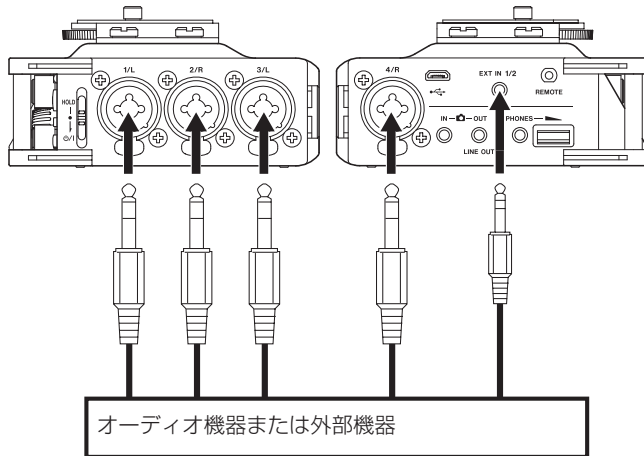
マイクを接続する

マイクを本機の1/L端子、2/R端子、3/L端子、4/R端子に接続します。
マイクを音源の方向へ向け、振動の少ない、安定した場所に設置してください。



外部機器から録音する (LINE IN)

ステレオプラグケーブルを使用して、外部オーディオ機器の出力と接続します。

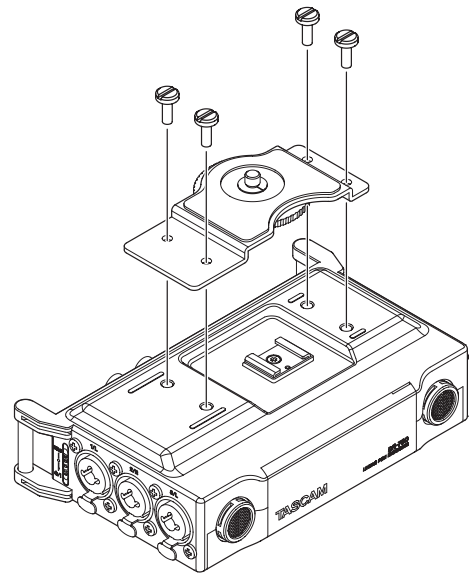


注意

- 本機の入力レベルを調節しても、入力された音が歪んでいる場合は、外部機器の再生音量を小さくしてください。
- 外部機器の出力レベルを調節できないライン出力を接続した場合は、音量が大きい音源などではレベルオーバーとなり、調節できない場合があります。その場合には、レベル調節可能なヘッドホン端子などを接続してください。

トップパネルのアクセサリースューを使う

トップパネルにあるアクセサリースューを使うには、デジタル一眼レフカメラ取り付け用ブラケットを取り外します。



付属品のカメラ取り付け用ブラケットねじ穴カバーをネジ穴に取り付けることができます。

第4章 録音

本機は、内蔵ステレオマイクを使った録音の他に、外部マイクあるいは外部オーディオ機器（CDプレーヤーなど）からの信号を録音することができます。

録音オーディオファイル形式は、WAV / BWF (44.1k/48k/96kHz、16/24ビット) から設定可能です。

BWF (Broadcast Wave Format) に対応したWAVファイルは、録音中に付けたスレート位置をBWF対応のソフトでマークとして使用することができます。また、本機では異なるレベルで2系統の録音を同時に行うこと（デュアル録音）や、4チャンネルの録音をすることなどができます。

録音形式について

本機では、作成されるファイルの形式を選択することができます。

MONOモード

録音選択したチャンネルをモノラルファイルで録音します。

録音選択したチャンネル分のファイルが作成されます。

STEREOモード

ステレオファイルで録音します。

例)

1CHを録音選択した場合、ステレオファイル（2CHは無音）が作成されます。

1CHと3CHを録音選択した場合、ステレオファイルx2（2CHと4CHは無音）となります。

MIXモード

"BASIC" 画面で設定した入力音を、ステレオファイルで作成します。4チャンネル全てを録音選択していても、ステレオファイルとなります。

ファイルの保存先を設定する

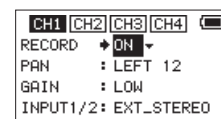
録音したファイルの保存するフォルダーを設定します。

録音したファイルは、カレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）に録音されます。詳細は、30ページ「フォルダー操作」のポップアップメニュー項目（"SELECT"）を参照してください。特に指定しない場合は、《MUSIC》フォルダーの下にファイルが作成されます。

録音するチャンネルを設定する

工場出荷時、録音するチャンネルの設定はオンに設定されています。録音するチャンネルをオフにするには、「BASIC」画面の「RECORD」項目をオフに設定します。

1. MENUボタンを押して、「MENU」画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して「BASIC」項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。「BASIC」画面が表示されます。
3. 1/■ボタン / 2/▶ボタン / 3/▶▶ボタン / 4/◀◀ボタンを押して、録音するチャンネルを選択します。
4. DATAダイヤルを回して選択したチャンネルの「RECORD」項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



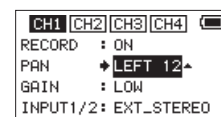
[「BASIC」画面CH1]

5. DATAダイヤルを回して、録音するチャンネルのオン/オフを設定します。
選択肢: 「ON」（初期値）、「OFF」
6. 必要に応じて手順3. ~ 5.を繰り返し、録音するチャンネルのオン/オフを設定します。
7. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

入力のバランスを調節する

「BASIC」画面の「PAN」項目で、録音するチャンネルの左右の定位を設定します。

1. MENUボタンを押して、「MENU」画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して「BASIC」項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。「BASIC」画面が表示されます。
3. 1/■ボタン / 2/▶ボタン / 3/▶▶ボタン / 4/◀◀ボタンを押して、入力のバランスを調節するチャンネルを選択します。
4. DATAダイヤルを回して選択したチャンネルの「PAN」項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



[「BASIC」画面CH1]

5. DATAダイヤルを回して、入力のバランスを設定します。
選択肢: 「LEFT 12」 ~ 「CENTER」（初期値） ~ 「RIGHT 12」
6. 必要に応じて手順3. ~ 5.を繰り返し、各チャンネルの入力バランスを設定します。
7. 調節が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

入力レベルを調節する

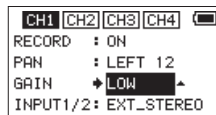
録音した音もしくは信号が入力が大きすぎて歪む、または小さすぎてノイズに埋もれてしまうことを避けるために、録音する前に入力レベルを調節する必要があります。

手動で調節する機能の他にリミッター機能もありますので、お好みに応じてお使いください。(→ 22ページ「リミッター機能を設定する」)

ヒント

入力レベルの調節だけでなく、マイクと音源との距離や向きを調節してみてください。また、マイクの向きや音源との距離によって音質が変わります。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“BASIC”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“BASIC”画面が表示されます。
3. 1/■ボタン／2/▶ボタン／3/▶▶ボタン／4/◀◀ボタンを押して、入力レベルを調節するチャンネルを選択します。
4. DATAダイヤルを回して選択したチャンネルの“GAIN”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



[“BASIC”画面CH1]

メモ

設定チャンネルを切り換えたい場合には、DATAダイヤルを回して別チャンネル画面まで移動するか、1/■ボタン／2/▶ボタン／3/▶▶ボタン／4/◀◀ボタンを押して移動することができます。

5. DATAダイヤルを回して、マイク入力ゲインを設定します。
選択肢：“LOW”（初期値）、“MID”、“HIGH”、“HI+PLUS”

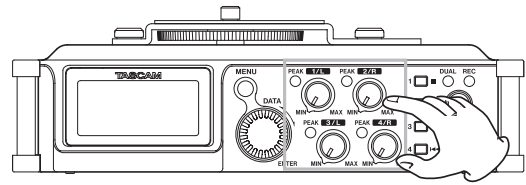
メモ

“LOW”、“MID”、“HIGH”、“HI+PLUS”では、入力ゲインが異なります。入力の大きさに応じて選択を行います。

どれを選択したらよいかわからない場合は、“LOW”を選択してください。そして入力レベル調節時に十分なレベルが得られない場合は、再び画面に戻って“MID”に切り換えてください。それでも十分なレベルが得られない場合は“HIGH”、“MID HI+PLUS”へと切り換えて調整してください。

6. 調節が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

7. リアパネルの1/Lつまみ／2/Rつまみ／3/Lつまみ／4/Rつまみを使って、入力レベルを調節します。



入力音が大きすぎる場合は、各つまみの左側のPEAKインジケーターが赤く点灯します。

レベルメーターには、-16dBの位置に“▼”の目印が付いています。

この目印を中心にレベルが変化し、かつPEAKインジケーターが赤く点灯しないように入力レベルを設定してください。

注意

マイク入力時は、アナログ回路で歪んだ場合にも点灯します。
ライン入力時は、アナログ回路で歪んだ場合でも点灯しません。

メモ

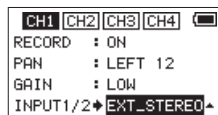
モニター音を聴きながら入力レベル調節や録音を行う場合は、ヘッドホンを本機のPHONES端子に接続してください。
モニター音は、PHONES端子ボリュームで調節できます。

8. 必要に応じて手順3. ～ 6.を繰り返し、各チャンネルのマイク入力ゲインを設定します。

録音する入力ソースを設定する

“BASIC”画面の“INPUT 1/2”項目または“INPUT 3/4”項目で、録音する入力ソースを設定します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“BASIC”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。“BASIC”画面が表示されます。
3. DATAダイヤルを回して選択したチャンネルの“INPUT 1/2”項目または“INPUT 3/4”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



[“BASIC”画面CH1]

4. DATAダイヤルを回して、録音するチャンネルの入力ソースを設定します。

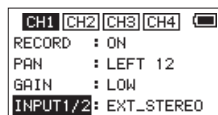
項目	選択肢	内容
INPUT 1/2	EXT STEREO (初期値)	EXT 1/2端子から入力
	EXT POWER	EXT 1/2端子から入力 (プラグインパワー機能オン)
	XLR/TRS	1/L端子と2/R端子から入力
INPUT 3/4	MIC (初期値)	内蔵マイクから入力
	XLR/TRS	3/L端子と4/R端子から入力

5. 調節が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

プラグインパワーについて

EXT IN 1/2端子にプラグインパワーを必要とする外部マイクを接続したとき、プラグインパワー機能をオンにします。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“BASIC”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。“BASIC”画面が表示されます。
3. 1/■ボタンまたは2/▶ボタンを押して、“INPUT 1/2”項目を表示します。



4. DATAダイヤルを回して“INPUT 1/2”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。設定項目にカーソルが移動します。
5. DATAダイヤルを回して設定項目を“EXT POWER”にし、DATAダイヤルを押します。設定項目選択状態に戻り、プラグインパワー機能がオンになります。
6. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

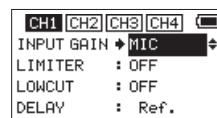
注意

- ダイナミックマイクや電池内蔵の外部マイクを接続するときは、“INPUT 1/2”項目を“EXT STEREO”に設定してください。“EXT POWER”にすると接続したマイクの故障の原因になる恐れがあります。
- マイクを使って録音を行うときは、モニターシステムにヘッドホンを使って行ってください。スピーカーを使ってモニターすると、スピーカーの出力音が入力されて正常な音で録音できない、またはハウリング（フィードバック）を起こす可能性があります。

入力ゲインの選択をする

接続されている外部機器に合わせて、“INPUT”画面の“INPUT GAIN”項目で選択します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“INPUT”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。“INPUT”画面が表示されます。
3. 1/■ボタン / 2/▶ボタン / 3/▶▶ボタン / 4/◀◀ボタンを押してを、入力ゲインを設定するチャンネルを選択します。
4. DATAダイヤルを回して選択したチャンネルの“INPUT GAIN”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



[“INPUT”画面CH1表示]

5. DATAダイヤルを回して、入力ゲインを設定します。

選択肢：

LINE：

外部機器のライン出力端子を本機器のアナログ入力に接続した場合は、“LINE”に設定します。

MIC (初期値)：

マイクを本機に接続した場合は、“MIC”に設定します。

MIC+PHANTOM：

ファントム電源(24V / 48V)を必要とするコンデンサーマイクを本機に接続した場合は、“MIC+PHANTOM”に設定します。

設定したチャンネルの該当する“BASIC”画面の“INPUT 1/2”項目または“INPUT 3/4”項目が“XLR/TRS”の場合、“MIC+PHANTOM”にするとファントム電源をオンにする確認のポップアップメッセージが表示されます。(→ 21ページ「ファントム電源について」)

24V / 48Vの電圧設定は、“MIC SETTING”画面で行います。(→ 21ページ「ファントム電源の電圧値の設定」)

6. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

注意

この設定に合わせて入力レベルの設定範囲が切り換わります。そのため切り換えたときに入力レベルが大きく変化する場合がありますので、出力レベルを絞り切った状態で切り換えてください。

ファントム電源について

停止中に、“INPUT”画面の“INPUT GAIN”項目を“MIC+PHANTOM”にすると、ファントム電源をオンにする確認のポップアップメッセージが表示されます（設定したチャンネルの該当する“BASIC”画面の“INPUT1/2”項目または“INPUT3/4”項目が“XLR/TRS”の場合）。



確認のポップアップメッセージを表示中にDATAダイヤルを押すとファントム電源がオンになり、1/L端子／2/R端子／3/L端子／4/R端子のファントム電源（24V／48V）がオンになりマイクに供給されます。

24V／48Vの電圧設定は、“MIC SETTING”画面で行います。（→21ページ「ファントム電源の電圧値の設定」）

メモ

“48V”に設定した場合、“24V”よりも電池の消耗が早くなります。

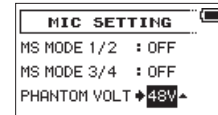
注意

- 1/L端子／2/R端子／3/L端子／4/R端子にライン機器を接続する場合は、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- 1/L端子／2/R端子／3/L端子／4/R端子にコンデンサーマイクを接続する、または接続しているコンデンサーマイクを外すときは、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でマイクを接続したり外したりすると、マイクおよび本機の故障の原因になります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、ファントム電源をオンにしてください。
- リボンマイクの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクにファントム電源を供給しないでください。
- USBバスパワーで使用する場合、使用されるパソコンによってはファントム電源が供給できない場合があります。その場合は、専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）をご使用ください。
- コンデンサーマイクによっては、+24Vに設定されたファントム電源では動作しないものもあります。
- ファントム電源使用中は、USB端子に接続されている電源ケーブルの抜き差しを行わないでください。本体に電池を挿入している状態でも電源が切れる可能性があり、録音中のデータが破損または消失してしまうことがあります。

ファントム電源の電圧値の設定

“MIC SETTING”画面の“PHANTOM VOLT”項目で、ファントム電源を必要とする外部マイクを接続して使用するときの供給電源電圧を設定します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“MIC”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“MIC SETTING”画面が表示されます。
3. DATAダイヤルを回して“PHANTOM VOLT”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



4. DATAダイヤルを回してファントム電源の供給電源電圧を設定します。

選択肢：“24V”、“48V”（初期値）

メモ

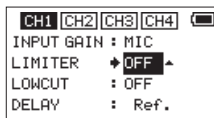
“48V”に設定した場合、“24V”よりも電池の消耗が早くなります。

5. 設定が終了したら、1/■ボタンを押してホーム画面に戻ります。

リミッター機能を設定する

リミッター機能を使うと、入力レベルに応じて本機の入力ゲインが変化し、大きい音が入力されても歪まないような録音レベルになります。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“INPUT”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“INPUT”画面が表示されます。
3. 1/■ボタン / 2/▶ボタン / 3/▶▶ボタン / 4/◀◀ボタンを押して、リミッター機能を使うチャンネルを選択します。
4. DATAダイヤルを回して各チャンネルの“LIMITER”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



[“INPUT”画面CH1表示]

5. DATAダイヤルを回して、リミッター機能を設定します。

選択肢	内容
OFF (初期値)	リミッター機能をオフ
MONO	選択したチャンネルのみリミッター機能をオン
LINK	選択したチャンネルと同期するチャンネルのリミッター機能をオン

6. 必要に応じて手順3. ~ 5.を繰り返し、各チャンネルのリミッター機能を設定します。
7. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

注意

入力音が大きすぎるとリミッター機能をオンにしても歪んでしまう場合があります。そのときは、手動で入力レベルを下げるか、音源からマイクを離してください。

メモ

- いずれかのチャンネルでリミッター機能がオン（“MONO”項目または“LINK”項目を選択時）のとき、録音画面に“LIMITER”アイコンを表示します。
- CH1 (CH2) / CH3 (4CH) のリミッター機能の設定を“MONO”と“LINK”の間で切り換えると、CH2 (CH1) / CH4 (CH3) 側の設定も同時に切り換わるため、確認のポップアップメッセージが表示されます。



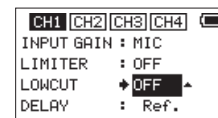
[“MONO” → “LINK” 切り換え時のポップアップメッセージ]

- “MONO” にすると過大入力したチャンネルのみリミッター機能が働き、“LINK” にすると過大入力したチャンネルとその同期するチャンネルにリミッター機能が働きます。

ローカットフィルターを設定する

ローカットフィルターを使用すると、空調機やプロジェクターなどによるノイズや耳障りな風切音などのノイズを低減することができます。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“INPUT”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“INPUT”画面が表示されます。
3. 1/■ボタン / 2/▶ボタン / 3/▶▶ボタン / 4/◀◀ボタンを押して、ローカットフィルターを使うチャンネルを選択します。
4. DATAダイヤルを回して各チャンネルの“LOW CUT”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



[“INPUT”画面CH1表示]

5. DATAダイヤルを回して、ローカットフィルターのカットオフ周波数を設定します。

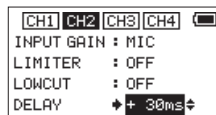
選択肢：“OFF”（初期値）、“40Hz”、“80Hz”、“120Hz”、“180Hz”、“220Hz”

6. 必要に応じて手順3. ~ 5.を繰り返し、各チャンネルのローカットフィルターを設定します。
7. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

各マイクの距離を補正する

内蔵マイクと外部マイク、または接続した各外部マイク間の距離が離れている場合に生じる時間差を補正します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“INPUT”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“INPUT”画面が表示されます。
3. 2/▶ボタン／3/▶▶ボタン／4/◀◀ボタンを押して、1CHとの距離を補正するチャンネルを選択します。
4. DATAダイヤルを回して各チャンネルの“DELAY”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。

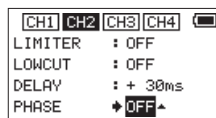


5. DATAダイヤルを回して、接続した各マイク間の距離に応じた値を設定します。
設定値：“-150ms”～“0ms”（初期値）～“+150ms”
6. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

各チャンネルの位相の設定

入力の位相を設定します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“INPUT”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“INPUT”画面が表示されます。
3. 1/■ボタン／2/▶ボタン／3/▶▶ボタン／4/◀◀ボタンを押して、位相を設定するチャンネルを選択します。
4. DATAダイヤルを回して各チャンネルの“PHASE”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。

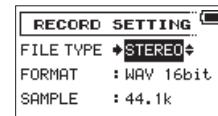


5. DATAダイヤルを回して、選択したチャンネルの位相を設定します。
選択肢：“OFF”（初期値、正位相）、“ON”（逆位相）
6. 必要に応じて手順3.～5.を繰り返し、各チャンネルの位相を設定します。
7. 調節が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

録音形式／ファイルフォーマット／サンプリング周波数を設定する

録音を実行する前に、録音オーディオのファイル形式を設定します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“RECORD”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“RECORD SETTING”画面が表示されます。
3. DATAダイヤルを回して“FILE TYPE”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



4. DATAダイヤルを回して、録音形式を設定します。

選択肢	内容
MONO	モノラルで録音
STEREO（初期値）	ステレオで録音
2MIX	ミックスしてステレオで録音

5. DATAダイヤルを押して、設定項目選択状態に戻ります。
6. DATAダイヤルを回して“FORMAT”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
ここでファイル形式を設定します。
DATAダイヤルを回して、以下の中から設定します。
選択肢：“BWF 16bit”、“BWF 24bit”、“WAV 16bit”（初期値）、“WAV 24bit”

メモ

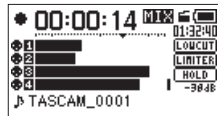
BWFは放送局用のフォーマットで、音質はWAVと同等です。ファイルの拡張子は“.wav”で、WAVファイルの拡張子と同じです。本書では、BWFに対応したWAVファイルを「BWF」、BWFに対応していないWAVファイルを「WAV」と表記します。

7. DATAダイヤルまたは3/▶▶ボタンを押して、設定項目選択状態にします。
8. DATAダイヤルを回して“SAMPLE”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
ここでサンプリング周波数を設定します。
DATAダイヤルを回して、以下の中から設定します。
選択肢：“44.1k”（初期値）、“48k”、“96k”
9. DATAダイヤルまたは4/◀◀ボタンを押すと、設定項目にカーソルが移動します。
10. 設定が終了したら、1/■ボタンを押してホーム画面に戻ります。

録音する(MONO / STEREO / 2MIX録音)

録音を開始する

1. 録音 (●) ボタンを押します。通常の録音が始まります。



録音が始まるとRECインジケータが点灯し、ディスプレイには録音経過時間および録音残時間が表示されます。

2. 録音を終了するには、録音 (●) ボタンまたは1/■ボタンを押します。

メモ

本機は、録音 (●) ボタンの操作音が録音されるのを避けるため、録音開始時に録音 (●) ボタンが押されてから0.3秒後に録音を開始します。

MONO録音時のファイル名

モノラル録音を行うと、1つのチャンネルに対し1つのファイルが作成されます。

ファイル名が以下のようになります。

TASCAM_0001S1.WAV
① ② ③ ④

- ①：“FILE NAME”画面の“WORD”項目の設定による
- ②：録音ファイルのプロジェクト番号
- ③：ソースファイル
- ④：アサインチャンネル

STEREO / 2MIX録音時のファイル名

ステレオ録音を行うと、1 / 2チャンネルもしくは3 / 4チャンネルに対し1つのファイルが作成されます。

ファイル名が以下のようになります。

TASCAM_0002S12.WAV
① ② ③ ④

- ①：“FILE NAME”画面の“WORD”項目の設定による
- ②：録音ファイルのプロジェクト番号
- ③：ソースファイル
- ④：アサインチャンネル

録音中にファイルを切り換えて録音を続ける (トラックインクリメント)

録音中に手動で、またはファイルサイズが2GBになったときに自動的に現在のファイルへの録音を停止し、新しいファイルに録音を継続することができます (トラックインクリメント機能)。

録音中に手動でトラックインクリメントする

録音中に、いつでも簡単に手動でファイルを更新し、録音を継続することができます。

1. 録音中に、3/▶▶▶ボタンを押します。

メモ

新しいファイルが作成されると、ファイル名の末尾の数字が繰り上がります。

注意

- フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。
- 録音時間が2秒以内のファイルを作成することはできません。また、サンプリング周波数が96kHzの場合は、4秒以内のファイルを作成することはできません。
- 新たに作成するファイルのファイル名がすでに存在する場合は、さらに数字が繰り上がります。

録音中に自動でトラックインクリメントする

録音中にファイルサイズが2GBに達すると、自動的に現在のファイルへの録音を停止し、新しいファイルに録音を継続します。

注意

フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。

異なる入力レベルで同時に2系統の録音をする (DUAL REC)

本機では、通常の録音とは別に、異なる入力レベルでもう1つの録音を同時に行うことができます。たとえば、マイク録音を行う際に、片方はできるだけ入力レベルを上げた状態で通常の録音をし、安全のために入力レベルを少し低めに設定したもう1つの録音を同時にするということができます。

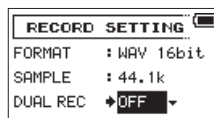
録音ファイルは、2個（入力レベルを上げたファイル、入力レベルを下げたファイル）で保存されます。

メモ

通常の録音における入力レベル設定は、従来の方法で行ってください。（→ 19ページ「入力レベルを調節する」）、（→ 20ページ「入力ゲインの選択をする」）

デュアル録音の設定をする

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“RECORD”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“RECORD SETTING”画面が表示されます。
3. DATAダイヤルを回して“DUAL REC”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



4. DATAダイヤルを回して、デュアル録音するもう1つのファイルの入力レベルを設定します。
選択肢：“OFF”（初期値）、“-1dB”～“-12dB”（“-1dB”ごと）

メモ

録音選択が3チャンネル以上、または1CHと3CHのようにステレオペアにならない状態では設定できません。

5. DATAダイヤルまたは4/1◀ボタンを押して、設定項目選択状態に戻します。
6. 設定が終了したら、1/■ボタンを押してホーム画面に戻ります。

デュアル録音を開始する

録音（●）ボタンを押すと、デュアル録音が始まります。デュアル録音時は、以下のような録音画面表示になります。



録音画面の入力ソース表示部に現在の入力ソースと、デュアル録音するもう1つのファイルの入力レベルを表示します。

デュアル録音時のファイル名

デュアル録音を行うと、2つのファイルが同時に作成されます。デュアル録音されたもう1つのファイルのファイル名は、通常録音されたファイルのファイル名に“-XX”が追加された名前になります。

“-XX”は、下げた入力レベル幅です。

TASCAM_0003S12.WAV

① ② ③ ④

TASCAM_0003SD12-05.WAV

① ② ③⑤④ ⑥

- ①：“FILE NAME”画面の“WORD”項目の設定による
- ②：録音ファイルのプロジェクト番号
- ③：“S”→ソースファイル
- ④：アサインチャンネル
（“12”→1CHと2CH、“34”→3CHと4CH）
- ⑤：“D”→デュアル録音時のレベルを下げたファイル
- ⑥：入力レベルを-5dB設定でデュアル録音されたファイル
（例：-6dBでは“-06”、-10dBでは“-10”）

オートトーン機能を使う

オートトーン機能は、録音開始時や録音終了時に自動的にトーン信号を挿入する機能です。

右サイドパネルの **OUT** 端子をカメラの音声入力端子に接続すると、同じトーン信号がお互いのファイルに記録されるので、動画編集ソフトで位置合わせの際に目安にすることができます。

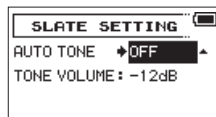
デジタル一眼レフカメラとの接続方法の詳細については、16ページ「カメラと接続する／カメラに取り付ける」をご参照ください。

メモ

“MONITOR SETTING” 画面の “OUTPUT LEVEL” 項目をいっばいにしても音量が足りない場合は、“MONITOR SETTING” 画面の “OUTPUT GAIN” 項目を “LINE” にして音量調整をしてください。

オートトーン機能を設定する

1. MENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して “SLATE” 項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“SLATE SETTING” 画面が表示されます。
3. DATAダイヤルを回して “AUTO TONE” 項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。

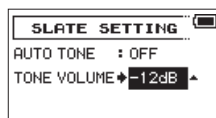


4. DATAダイヤルを回して、トーン信号を挿入する位置を設定します。
選択肢：“OFF”（初期値）、“HEAD”（録音開始時のみ）、“HEAD+TAIL”（録音開始時と終了時）
5. 設定が終了したら、1/■ボタンを押してホーム画面に戻ります。

オートトーンやスレートトーンの音量調節機能

オートトーンやスレートトーンの音量を調節することができます。

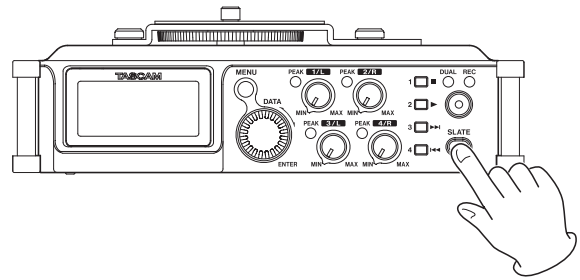
1. MENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して “SLATE” 項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“SLATE SETTING” 画面が表示されます。
3. DATAダイヤルを回して “TONE VOLUME” 項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



4. DATAダイヤルを回して、トーン音量を設定します。
選択肢：“-12dB”（初期値）、“-18dB”、“-24dB”、“-30dB”、“-36dB”
5. 設定が終了したら、1/■ボタンを押してホーム画面に戻ります。

スレートトーンを挿入する

録音中にリアパネルのSLATEボタンを押すと、任意の位置で録音ファイルにトーン信号を挿入することができます。



デジタル一眼レフカメラとの接続方法の詳細については、16ページ「カメラと接続する／カメラに取り付ける」をご参照ください。

メモ

SLATEボタンは、誤操作防止のためしばらく押し続けるとスレートトーンが挿入されません。

スレートトーン挿入位置への移動

停止中または再生中に、選択されているファイルのスレートトーンの挿入位置に移動することができます。

頭出しのためのインデックスのように使用することができます。

1. 停止中または再生中にDATAダイヤルを回します。
DATAダイヤルを右に回すと次のスレートトーン的位置に、左に回すと前のスレートトーン的位置へ移動します。

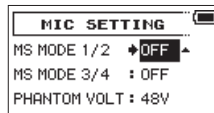
メモ

DATAダイヤルを右に回したとき、現在の位置より後にスレートトーンの挿入がない場合は次のファイルの先頭に移動します。
DATAダイヤルを左に回したとき、現在の位置より前にスレートトーンの挿入がない場合はファイルの先頭に移動します。

MSマイクを使う

本機には、MSデコーダーが搭載されており、MSマイクを使用した録音／再生ができます。

- 1/L端子と2/R端子、または3/L端子と4/R端子にMSマイクを接続します。
MSマイクのMid側を1/L端子または3/L端子に、Side側を2/R端子または4/R端子にそれぞれ接続してください。
MidとSideを逆に接続すると正しくデコードすることができません。
2. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
3. DATAダイヤルを回して“MIC”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“MIC SETTING”画面が表示されます。
4. DATAダイヤルを回して“MS MODE 1/2”項目または“MS MODE 3/4”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



5. DATAダイヤルを回して、MSマイク使用時のデコードモードを設定します。

選択肢	内容
OFF（初期値）	通常モードでの録音を行います。
REC	デコードしながら録音するときに使用するモードです。 再生は、通常の再生を行います。
PLAY	あとからデコードする目的でMSマイクの出力をデコードせずに録音するとき、録音時にモニターする場合に使用するモードです。 デコードせずに録音したファイルをデコードして再生する場合にも使用します。

6. 設定が終了したら、1/■ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。
7. 録音操作を行うとデコードされた信号が録音され、再生操作を行うとデコードしながら再生します。

録音時間について

各ファイルフォーマットにおける、SD / SDHC / SDXCカード容量別の録音時間を以下の表に示します。

ファイルフォーマット (録音時の設定)		SD / SDHC / SDXCカード容量			
		1GB	4GB	32GB	128GB
WAV / BWF 16ビット (STEREO)	44.1kHz	1時間41分	6時間44分	53時間52分	201時間35分
	48kHz	1時間33分	6時間12分	49時間36分	185時間13分
	96kHz	46分	3時間06分	24時間48分	92時間36分
WAV / BWF 24ビット (STEREO)	44.1kHz	1時間07分	4時間30分	35時間44分	134時間24分
	48kHz	1時間02分	4時間08分	33時間04分	123時間28分
	96kHz	31分	2時間04分	16時間32分	61時間44分

- 上記録音時間は目安です。ご使用のSD / SDHC / SDXCカードにより異なる場合があります。
- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、SD / SDHC / SDXCカードに可能な録音合計時間です。
- MONO録音（録音チャンネルが1チャンネルの場合）の場合は、上記録音時間の約2倍の時間となります。
- 4チャンネル録音の場合は、上記録音時間の約半分の時間となります。

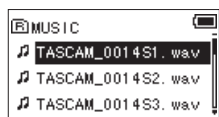
第5章 ファイルやフォルダーの操作 (BROWSE画面)

"BROWSE" 画面では、SDカード上の "MUSIC" フォルダ (オーディオファイルの収納フォルダ) の内容を見ることができます。

ヒント

本機とパソコンをUSB接続するか、あるいはSDカードを直接パソコンにセットすることにより、パソコンからも "MUSIC" フォルダ内のフォルダ構成の変更やファイルの削除ができます。さらに、パソコンからファイル名の編集が可能です。

"BROWSE" 画面を表示するには、MENUボタンを押して "MENU" 画面を表示し、DATAダイヤルを回して "BROWSE" 項目を選択 (反転表示) し、DATAダイヤルを押します。



この画面には、"BROWSE" 画面を表示する前に、ホーム画面で選択されていたファイルを含むフォルダの内容が表示されます。

BROWSE画面内のナビゲーション

"BROWSE" 画面には、パソコンにおけるファイルのリスト表示のように、フォルダや音楽ファイルがリスト表示されます。フォルダは、第2階層まで作成できます。

- DATAダイヤルを回して、ファイルやフォルダを選択します。
- フォルダを選択中 (反転表示中) に3/▶▶ボタンを押すと、フォルダの内容が表示されます。
- ファイルやフォルダを選択中 (反転表示中) に4/◀◀ボタンを押すと、現在開いているフォルダが閉じて、上位の階層が表示されます。
- フォルダやファイルを選択中 (反転表示中) にDATAダイヤルを押すと、ポップアップメニューが表示されます。
- ファイルを選択中 (反転表示中) に2/▶ボタンを押すと、ホーム画面に戻りそのファイルが再生されます。
このファイルを含むフォルダがカレントフォルダ (現在選択されているフォルダ) になり、録音したファイルが記録されるフォルダとなります。また、このフォルダが再生範囲となります。
- ファイルを選択中 (反転表示中) に3/▶▶ボタンを押すと、ホーム画面に戻りそのファイルがロードされます。
このファイルを含むフォルダがカレントフォルダ (現在選択されているフォルダ) になり、録音したファイルが記録されるフォルダとなります。また、このフォルダが再生範囲となります。
- フォルダを選択中 (反転表示中) に2/▶ボタンを押すと、ホーム画面に戻り、そのフォルダの最初のファイル (リスト表示したときに一番上に表示されるファイル) が再生されます。
このフォルダがカレントフォルダ (現在選択されているフォルダ) になり、録音したファイルが記録されるフォルダとなります。また、このフォルダが再生範囲となります。

BROWSE画面内のアイコン表示

以下に "BROWSE" 画面内のアイコン表示内容を説明します。

MUSICフォルダ (📁)

ルート (ROOT) 階層表示中の "BROWSE" 画面では、最上段に MUSICフォルダが表示されます。

オーディオファイル (🎵)

音楽ファイルは、"🎵" アイコンのあとにファイル名が表示されます。

フォルダ (📁)

内部にフォルダが存在するフォルダです。

フォルダ (📁)

内部にフォルダが存在しないフォルダです。

表示中のフォルダ (📁)

現在、このフォルダの内容を画面表示しています。

新しいフォルダ (📁)

新しいフォルダを作成します。

ファイル操作

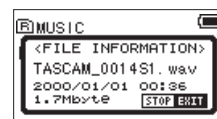
"BROWSE" 画面内の希望のオーディオファイルを選択 (反転表示) しDATAダイヤルを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。



DATAダイヤルを回して希望の項目を選択 (反転表示) しDATAダイヤルを押すと、本機が以下の動作を行います。

INFO

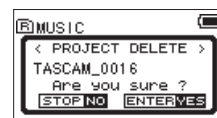
選択したファイルの情報 (日付、サイズ) が表示されます。再度DATAダイヤルを押すか1/■ボタンを押すと、"BROWSE" 画面に戻ります。



DELETE

選択したファイルを削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。

DATAダイヤルを押すとファイルが削除され、1/■ボタンを押すと削除が中止されます。



注意

現在選択されているファイルを含む、同じ基本番号のファイルが同時に削除されます。

CANCEL

選択中 (反転表示中) のファイルに関する操作を取り消し、ポップアップメニューを閉じます。

第5章 ファイルやフォルダーの操作 (BROWSE画面)

フォルダー操作

"BROWSE" 画面内の希望のフォルダーを選択し、DATAダイヤルを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。



DATAダイヤルを回して希望の項目を選択 (反転表示) し、DATAダイヤルを押すと本機が以下の動作を行います。

SELECT

ホーム画面に戻り、選択したフォルダー内の最初のファイルが選択されます。このフォルダーが再生範囲になります。また、この操作で選択されたフォルダーに、録音したファイルが保存されます。

ALL DEL

選択したフォルダー内のファイルを一括削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。

DATAダイヤルを押すとファイルが削除され、1/■ ボタンを押すと削除が中止されます。

メモ

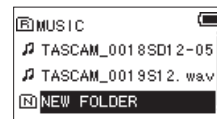
書き込み禁止ファイルや本機で認識されていないファイルは、削除されません。

CANCEL

選択中 (反転表示中) のフォルダーに関する操作を取り消し、ポップアップメニューを閉じます。

新しいフォルダーを作る

各フォルダーの一番下に、“NEW FOLDER” があります。



“NEW FOLDER” を選択 (反転表示) し、DATAダイヤルを押します。新たなフォルダーを作成する確認のポップアップメッセージが表示されます。



DATAダイヤルを押すとフォルダーが作成され、1/■ ボタンを押すと作成が中止されます。ただし、本機では3階層以上のフォルダーを扱うことはできないため、第2階層のフォルダーには“NEW FOLDER” はありません。

新規に作成されたフォルダーがカレントフォルダー (現在選択されているフォルダー) になり、録音したファイルはここに記録されるようになります。また、このフォルダーが再生範囲になります。

再生する

ホーム画面で停止中に**2/▶** ボタンを押すと、再生を始めます。

メモ

"BROWSE" 画面でファイル名を選択して再生させることもできます。

一時停止する

ホーム画面で再生中に**1/■** ボタンを押すと、その位置で再生を停止します（一時停止）。

再度**2/▶** ボタンを押すと、その位置から再生を始めます。

停止する

ホーム画面で再生中に**1/■** ボタンを押して一時停止状態にし、再度**1/■** ボタンを押すと、ファイルの先頭に戻ります（停止）。

早戻し／早送りをする（サーチ）

ホーム画面で停止中または再生中に**4/◀◀** ボタン／**3/▶▶** ボタンを押し続けると、早戻し／早送りサーチ再生を行います。

メモ

4/◀◀ ボタン／**3/▶▶** ボタンを押し続けると、サーチスピードが加速します。

再生するファイルを選択する（スキップ）

ホーム画面で、**4/◀◀** ボタンまたは**3/▶▶** ボタンを押して再生したいファイルを選択します。

ファイルの再生途中で**4/◀◀** ボタンを押すとファイルの先頭へ戻り、ファイルの先頭で**4/◀◀** ボタンを押すと1つ前のファイルの先頭にスキップします。

ファイルの先頭または途中で**3/▶▶** ボタンを押すと、次のファイルへスキップします。

メモ

- 再生中のファイル情報（曲名など）やファイル番号がディスプレイに表示されます。
- ファイルの先頭で停止しているときは、ディスプレイに動作アイコン“■”を表示します。ファイルの途中で停止しているときは、動作アイコン“||”を表示します。
- ファイルを移動したい場合には、**4/◀◀** ボタンまたは**3/▶▶** ボタンを必要なだけ押してください。

デュアル録音したファイルの再生

デュアル録音で作成されたファイルは、通常のレベルで作成されたファイルの次に登録されています。

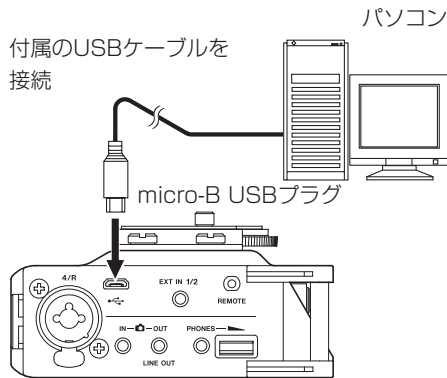
通常録音されたファイルを再生し、**3/▶▶** ボタンを押すと入力レベルを下げ、録音したファイルを再生します。

第7章 パソコンと接続する

本機をパソコンと付属のUSBケーブルで接続することで、本機のSDカードの中の音声ファイルをパソコンに取り出したり、パソコンの中の音声ファイルを本機に取り込んだりすることができます。本機で取り扱うことができる音声ファイル形式は、以下の通りです。

WAV : 44.1k/48k/96kHz, 16/24ビット

BWF : 44.1k/48k/96kHz, 16/24ビット



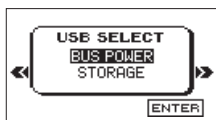
メモ

- 本機とパソコンをUSB接続する代わりに、本機からSDカードを取り外して直接（あるいはカードアダプターを使って）パソコンにセットしても、同じ操作ができます。
- WAV / BWFファイルの拡張子は、どちらも`.wav`となります。

注意

- USBを接続し“STORAGE”を選択（反転表示）した場合は、本機の操作はできません。
- パソコンとの接続は、ハブを経由せずに直接接続してください。

電源がオンのときにUSB接続すると、またはUSB接続後に電源をオンにすると、USBバスパワーで供給するか、パソコンとUSB接続するかを選択する“USB SELECT”画面が表示されます。



DATAダイヤルを回して“STORAGE”を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押すと本機がパソコンに接続され、ディスプレイに“USB connected”が表示されます。



本機にSDカードが正しく挿入されていることを確認してください。

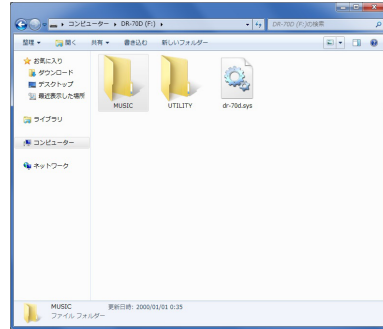
メモ

電池をセットした状態でUSB接続した場合は、USBから電源が供給されます。(USBバスパワー優先)

《コンピュータ》を開くと、パソコンのディスプレイ上に本機が《DR-70D》というボリュームラベルの外部ドライブとして表示されます（本機でフォーマットした場合）。

パソコンへファイルを取り出す

1. パソコンのディスプレイ上の《DR-70D》ドライブをクリックすると、《MUSIC》フォルダーと《UTILITY》フォルダーが表示されます。
2. 《MUSIC》フォルダーを開き、パソコンに取り出したいファイルを任意の場所にドラッグ&ドロップします。



パソコンからファイルを取り込む

1. パソコンのディスプレイ上の《DR-70D》ドライブをクリックすると、《MUSIC》フォルダーと《UTILITY》フォルダーが表示されます。
2. パソコンの任意の音声ファイルを《MUSIC》フォルダーにドラッグ&ドロップします。

ヒント

- パソコン上の操作で、《MUSIC》フォルダー内を管理することができます。
- 《MUSIC》フォルダー内にサブフォルダーを作成することができます。サブフォルダーは、2階層まで作成できます。本機では、3階層以下のサブフォルダーおよびファイルは認識できません。
- サブフォルダーや楽曲に希望の名前を付けておくと、本機のホーム画面上や“BROWSE”画面上に表示されます。

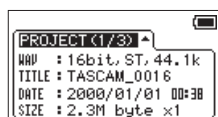
パソコンとの接続を解除する

パソコンと本機の接続を外すときは、パソコンから本機を正しい手順で切り離してから、USBケーブルを外します。シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がオフ（スタンバイ状態）になります。パソコン側での接続解除方法については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

情報を見る (INFORMATION)

“INFORMATION”画面で、本機の各種情報を見ることができます。以下の手順で“INFORMATION”画面を表示します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“OTHERS”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“OTHERS”画面を表示します。
3. DATAダイヤルを回して“INFORMATION”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。



“INFORMATION”画面の“PROJECT (1/3)”ページが表示されます。

“INFORMATION”画面には、以下のページがあります。

4. DATAダイヤルを回して、ページを切り換えます。各ページには、以下の情報が表示されます。

“PROJECT (1/3)”ページ：

現在ロードされているオーディオファイルの情報を表示

“CARD (2/3)”ページ：

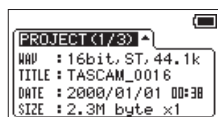
セットしているSDカードの使用状況を表示

“SYSTEM (3/3)”ページ：

本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示

ファイル情報ページ (PROJECT)

“PROJECT (1/3)”ページでは、現在ロードされているオーディオファイルの情報を表示します。



WAV / BWF

オーディオファイルの形式を表示します。

WAV / BWFファイルの場合は、ビット長、ステレオ/モノラル、サンプリング周波数 (Hz) を表示します。

TITLE

プロジェクト名を表示します。

DATE

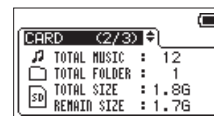
ファイルの日付を表示します。

SIZE

ファイルサイズを表示します。

カード情報ページ (CARD)

“CARD (2/3)”ページでは、挿入しているSDカードの使用状況を表示します。



TOTAL MUSIC

MUSICフォルダー内にある再生可能なファイル数を表示します。

TOTAL FOLDER

MUSICフォルダー内にあるフォルダー数を表示します。

TOTAL SIZE

SDカードの総メモリー容量を表示します。

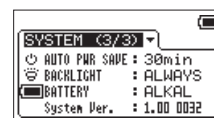
REMAIN SIZE / USED SIZE

SDカードの残容量/使用量を表示します。

4/1◀◀ボタンまたは3/▶▶ボタンを押すと、表示が“REMAIN SIZE”と“USED SIZE”に交互に切り換わります。

システム情報ページ (SYSTEM)

“SYSTEM (3/3)”ページでは、本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示します。



AUTO PWR SAVE

電源のオートパワーセーブ機能の設定時間を表示します。

BACKLIGHT

バックライトのオートオフ設定を表示します。

BATTERY

使用する電池の種類の設定を表示します。

System Ver.

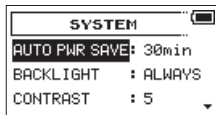
システムファームウェアのバージョン情報を表示します。

環境設定 (SYSTEM)

使用環境や条件に合わせて本機を快適に使うためのさまざまな設定、および本機の初期化やSDカードのフォーマットなどを、“SYSTEM”画面で行います。

以下の手順で“SYSTEM”画面を表示します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“OTHERS”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“OTHERS”画面を表示します。
3. DATAダイヤルを回して“SYSTEM”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“SYSTEM”画面が表示されます。



“SYSTEM”画面の各項目で、以下の設定を行うことができます。4/◀ボタンと3/▶ボタン、およびDATAダイヤルを使って、各項目の設定をします。

電源のオートパワーセーブ機能の設定

“AUTO PWR SAVE”項目で最後に動作、あるいは操作してから自動的に電源がオフ(スタンバイ状態)になるまでの時間を設定します。

選択肢：“OFF”（自動オフしない）、“3min”（分）、“5min”（分）、“10min”（分）、“30min”（分、初期値）

バックライトの設定

“BACKLIGHT”項目で電池供給のときに、最後に操作してから自動的にバックライトが消灯するまでの時間を設定します。

選択肢：“OFF”（消灯）、“5sec”（秒、初期値）、“10sec”（秒）、“15sec”（秒）、“30sec”（秒）、“ALWAYS”（常に点灯）

ディスプレイのコントラスト調節

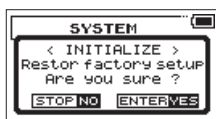
“CONTRAST”項目でディスプレイのコントラストを調節します。

選択肢：“1”～“20”（初期値：“5”）

初期設定に戻す

“INITIALIZE”項目でイニシャライズを実行することにより、本機のさまざまな設定を初期設定状態に戻すことができます。

1. DATAダイヤルを回して“INITIALIZE”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押すと“Exec”が反転表示します。
2. DATAダイヤルを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。



3. DATAダイヤルを押して、イニシャライズを実行します。
イニシャライズしない場合は、1/■ボタンを押します。

SDカードをフォーマットする

“FORMAT”項目で、SDカードをフォーマットします。

フォーマットを行うと、SDカード上の全ての音楽ファイルが消去され、《MUSIC》フォルダー、《UTILITY》フォルダーおよび《dr-70d.sys》が自動生成されます。

1. DATAダイヤルを回して“FORMAT”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押すと“Exec”が反転表示します。
2. DATAダイヤルを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。



3. DATAダイヤルを押して、フォーマットを実行します。
フォーマットしない場合は、1/■ボタンを押します。

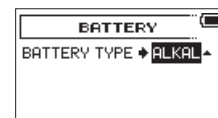
注意

フォーマットの実行は、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）を使用するか、パソコンとのUSB/バスパワー接続状態で行うか、電池の残量が十分な状態で行ってください。フォーマット中に電池切れになると、正常なフォーマットができない場合があります。

電池の種類の設定

“BATTERY TYPE”項目で、使用する電池の種類を設定します。この設定は、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量の識別に使用されます。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“OTHERS”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“OTHERS”画面を表示します。
3. DATAダイヤルを回して“BATTERY”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“BATTERY”画面が表示されます。
4. “BATTERY TYPE”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。

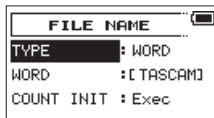


5. DATAダイヤルを回して、使用する電池の種類を設定します。
選択肢：“ALKAL”（アルカリ乾電池、初期値）、
“Ni-MH”（ニッケル水素電池）
6. 設定が終了したら、1/■ボタンを押してホーム画面に戻ります。

ファイル名の形式を設定する

本機で録音するファイル名の形式を設定することができます。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“OTHERS”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“OTHERS”画面を表示します。
3. DATAダイヤルを回して“FILE NAME”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
“FILE NAME”画面が表示されます。



4/◀◀ボタンと3/▶▶ボタン、およびDATAダイヤルを回して各項目の設定をします。
この画面の各項目で、以下の設定を行うことができます。

ファイル名の形式

“TYPE”項目で、“WORD”か“DATE”かを設定します。

選択肢：“WORD”（初期値）、“DATE”

- “WORD”（初期値）： “WORD”で設定した6文字をファイル名に付けます。
（例）TASCAM_0001S12.wav
- “DATE”： 日付をファイル名に付けます。
（例）141001_0001S12.wav

メモ

日付は、本体内の時計を基に設定されます。（→ 14ページ「日時を設定する」）

文字（WORD）の設定

“WORD”項目で、4/◀◀ボタンと3/▶▶ボタンでカーソルを移動し、DATAダイヤルを回して文字を設定します。

文字は、英数の他に、記号「!#\$%&'()*+,-.:/;=@[]^_`{|}」が使用可能です。

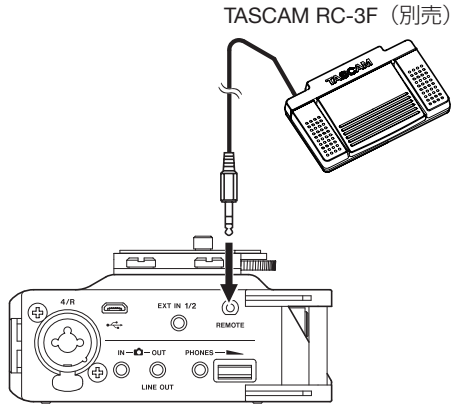
数字（COUNT）の初期化設定

“COUNT INIT”項目でDATAダイヤルを押して実行すると、これ以降のファイル作成時より、“WORD”項目で設定した文字または日付に続く数字部分が、“0001”から始まります。

第9章 REMOTE端子を使う

本機には、REMOTE端子が用意されています。
別売の専用フットスイッチ型リモートコントローラ（TASCAM RC-3F）または別売の専用ワイヤードリモコン（TASCAM RC-10）を接続して、本機を操作することができます。

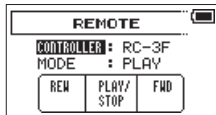
フットスイッチを使う（TASCAM RC-3F）



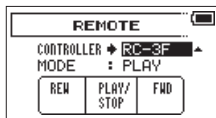
フットスイッチを設定する

“REMOTE”画面で、フットスイッチの設定を行います。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“OTHERS”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“OTHERS”画面を表示します。
3. DATAダイヤルを回して“REMOTE”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“REMOTE”設定画面を表示します。



4. DATAダイヤルを回して“CONTROLLER”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
5. DATAダイヤルを回して、“RC-3F”を選択します。（初期値：“RC-3F”）



6. 4/1◀◀ボタンとDATAダイヤルを使って“MODE”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
7. DATAダイヤルを回して、フットスイッチのスイッチモードを設定します。

選択肢：“PLAY”（初期値）、“RECORD1”、“RECORD2”

MODE	フットスイッチ		
	L	C	R
PLAY	REW	PLAY / STOP	FWD
RECORD1	STOP	REC	INC
RECORD2	STOP	REC	SLATE

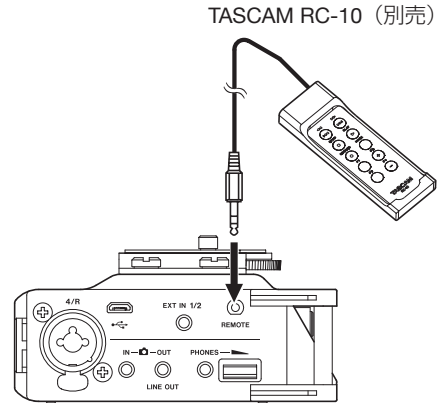
INC :トラックインクリメント機能
（上記以外は、本体機能と同じです）

8. 設定が終了したら、1/■ボタンを押してホーム画面に戻ります。

フットスイッチを使う

フットスイッチの各ペダルを踏むと、“REMOTE”画面で割り当てられた動作を行います。

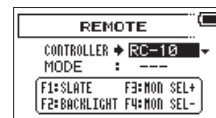
リモコンを使う（TASCAM RC-10）



リモコンを設定する

“REMOTE”画面で、リモコンの設定を行います。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAダイヤルを回して“OTHERS”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“OTHERS”画面を表示します。
3. DATAダイヤルを回して“REMOTE”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“REMOTE”設定画面を表示します。
4. DATAダイヤルを回して“CONTROLLER”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押します。
5. DATAダイヤルを回して、“RC-10”を選択します。（初期値：“RC-3F”）



6. 設定が終了したら、1/■ボタンを押してホーム画面に戻ります。

リモコンを使う

リモコン（TASCAM RC-10）の各ファンクションボタン（F1～F4）を押すと、“REMOTE”設定画面で割り当てられた動作を行います。

各モードの詳細

MODE	ファンクションボタン			
	F1	F2	F3	F4
	SLATE	Backlight Always ON / Backlight OFF	CAMERA / MIX	CAMERA / MIX

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。

DR-70Dでは、状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
Battery Empty	電池の残量がありません。電池を交換してください。
Card Error	SDカードを正常に認識できません。カードを交換してください。
Card Full	SDカードの残容量がありません。不要なファイルを削除するかパソコンへ移動してください。
File Full	フォルダーとファイルの総数が制限値(5000個)を超えました。不要なフォルダーやファイルを削除するかパソコンへ移動してください。
File Not Found	ファイルが見つからないか、ファイルが壊れている可能性があります。対象のファイルを確認してください。
File Not Found Make Sys File	本機を使用するために必要なシステムファイルがありません。このメッセージが表示されている状態で DATA ダイヤルを押すと、システムファイルが作られます。
File Protected	読み取り専用ファイルのため、削除できません。
Format Error Format CARD	SDカードが正常にフォーマットされていないか、SDカードが壊れている可能性があります。このメッセージは、USB接続したパソコンでフォーマットした場合や未フォーマットのカードを挿入した場合にも表示されます。フォーマットは、必ずDR-70D本体で行ってください。SDカードを交換するか、このメッセージが表示されている状態で DATA ダイヤルを押すと、フォーマットが実行されます。フォーマットが実行されるとSDカード内のデータは、全て消去されます。
Invalid Card Change Card	SDカードが正常でない可能性があります。SDカードを交換してください。
Invalid SysFile Make Sys File	本機を使用するために必要なシステムファイルが正常ではありません。このメッセージが表示されている状態で DATA ダイヤルを押すと、新しいシステムファイルが作られます。
Layer too Deep	フォルダーは、2階層までです。このフォルダー内に新たなフォルダーを作成することはできません。
MBR Error Init CARD	SDカードが正常にフォーマットされていないか、SDカードが壊れている可能性があります。SDカードを交換するか、このメッセージが表示されている状態で DATA ダイヤルを押すと、フォーマットが実行されます。フォーマットが実行されるとSDカード内のデータは、全て消去されます。
No Card	SDカードがセットされていません。録音可能なSDカードを挿入してください。

メッセージ	内容と対処方法
No PB File	再生可能なファイルがありません。ファイルが壊れている可能性があります。
Non-Supported	ファイル形式がサポート対象外です。取り扱い可能なファイル形式については、の34ページ「第8章 パソコンと接続する」をご覧ください。
Switched To Internal Battery	電源供給がUSBバスパワーから内部電池に切り替わりました。
Write Timeout	SDカードへの書き込みが間に合いませんでした。ファイルをパソコンへバックアップの上、フォーマットを実行してください。
No Rec Channels Selected	録音チャンネルが選択されていません(全てオフになっています)。
Not Possible Check FILE TYPE	設定を変更できません。 “FILE TYPE” 項目の設定を “MONO” または “STEREO” に変更してください。
Not Possible Check INPUT 3/4	設定を変更できません。 INPUT 3/4 の設定を “XLR/TRS” に変更してください。
Not Possible Check Rec Chs	設定を変更できません。録音チャンネルを確認してください。
Not Possible Set DUAL-REC OFF	設定を変更できません。DUAL RECモードをオフにしてください。
Can't Save Data	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れ直してください。電源を切ることができない場合は、電池や付属の専用ACアダプター(TASCAM PS-P515U)を取り外す、またはUSBバスパワー供給時はUSBケーブルを外してください。これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センター(裏表紙に記載)にご相談ください。
Device Error	
File Error	
Not Continued	
Player Error	
Remote Cmd	
Remote Rx	
Writing Failed	
Sys Rom Err	
System Err 50	
System Error 1	
System Error 2	
System Error 3	
System Error 4	
System Error 5	
System Error 6	
System Error 7	
System Error 8	
System Error 9	

第11章 トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご連絡ください。

電源が入らない。



- 電池が消耗していませんか？
- 電池の⊕、⊖を間違ってセットしていませんか？
- 別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）の電源プラグおよびUSBコネクタがしっかりと差し込まれていますか？
- USBバスパワー接続しているときに、USBケーブルがしっかりと差し込まれていますか？
- USBバスパワー接続しているときに、USBハブを使用していませんか？

電源が自動的に切れてしまう。

オートパワーセーブ機能が設定されていませんか？（→ 34ページ「電源のオートパワーセーブ機能の設定」）

- 本機は欧州待機時電力規制（ErP）に対応しているため、ACアダプター・電池使用時にかかわらずオートパワーセーブ機能が動作します。オートパワーセーブ機能を使用したくないときは「OFF」に設定してください（工場出荷時には「30分」に設定されています）。

本体で操作できない。

- HOLD /  /  スイッチが「HOLD」にセットされていませんか？
- USB接続（USB Connected）になっていませんか？

SDカードを認識しない。

- SDカードがしっかりと挿入されているか確認してください。

再生できない。

- WAVファイルの場合は、本機が対応しているサンプリング周波数であるかどうかを確認してください。

音が出ない。

- モニターシステムは、きちんと接続されていますか？
- モニターシステムの音量が最小になっていませんか？
- 本機の入力レベル設定が最小になっていませんか？

録音できない。

- 接続をもう一度確認してください。
- 入力設定をもう一度確認してください。
- 入力レベルが低くなっていませんか？
- SDカード容量がいっぱいになっていませんか？
- ファイル数が最大数に達していませんか？

入力レベルが低い。

- 入力レベル設定が低くなっていませんか？
- 接続した外部機器の出力レベルが低くなっていませんか？

録音しようとする音が歪んで聴こえる。

- 入力レベルの設定が大きすぎませんか？

入力つまみを回してもPEAKインジケーターが消灯しない。

- 本機に入力する音源のボリュームを下げてください。

ファイルが消去できない。

- パソコンで読み取り専用を設定したファイルをコピーしたものを消去しようとしていませんか？

パソコン上に本機のファイルが表示されない。

- 本機がUSB端子経由でパソコンに接続されていますか？
- USBハブを使っていませんか？
- 本機が録音中になっていませんか？

定格

記録メディア

- SDカード (64MB ~ 2GB)
- SDHCカード (4GB ~ 32GB)
- SDXCカード (48GB ~ 128GB)

録音再生フォーマット

- WAV : 44.1k/48k/96kHz, 16/24ビット
- BWF : 44.1k/48k/96kHz, 16/24ビット

チャンネル数

- 最大4チャンネル (ステレオ x2、モノラル x4)

入出力定格

アナログオーディオ入出力定格

1/L端子、2/R端子、3/L端子、4/R端子 (ファントム電源対応)

- コネクタ : XLR-3-31
(1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)
φ6.3mm (1/4") TRS標準ジャック
(Tip : HOT, Ring : COLD, Sleeve : GND)
- 入力ゲイン [MIC] 時または [MIC+PHANTOM] 時
入力インピーダンス : 2kΩ
ファントム電源 : 48V±4V (10mA/CH) or 24V±4V (10mA/CH)
- 最大入力レベル : 0dBu
最小入力レベル : -72dBu
マイク入力ゲイン (TRIM MAX時)
LOW : +21dB
MID : +36dB
HIGH : +51dB
HI+PLUS : +63dB
- 入力ゲイン [LINE] 時
入力インピーダンス : 10kΩ以上
基準入力レベル : +4dBu
最大入力レベル : +20dBu

EXT IN 1/2端子 (プラグインパワー対応)

- コネクタ : φ3.5mm (1/8") ステレオミニジャック
- 入力インピーダンス : 10kΩ
- 最大入力レベル : +10dBV
- 最小入力レベル : -50dBV
- マイク入力ゲイン (TRIM MAX時)
LOW : +3dB
MID : +11dB
HIGH : +26dB
HI+PLUS : +38dB

IN端子

- コネクタ : φ3.5mm (1/8") ステレオミニジャック
- 入力インピーダンス : 10kΩ
- 基準入力レベル : -10dBV
- 最大入力レベル : +6dBV

PHONES端子

- コネクタ : φ3.5mm (1/8") ステレオミニジャック
- 最大出力 : 20mW+20mW

OUT / LINE OUT端子

- コネクタ : φ3.5mm (1/8") ステレオミニジャック
- 出力インピーダンス : 200Ω
- CAMERA OUT設定時
基準出力レベル : -40dBV
最大出力レベル : -24dBV
- LINE OUT設定時
基準出力レベル : -10dBV
最大出力レベル : +6dBV

注)

- 最大入力レベル : 入力つまみを調整し、デジタルフルスケール (0dBFS) 信号を歪まずに入力できるレベル
- 最小入力レベル : 入力つまみを調整し、-20dBFSの信号を入力できるレベル

コントロール入出力定格

USB端子

- コネクタ : Micro-B タイプ
- フォーマット : USB2.0 HIGH SPEED マスストレージクラス

REMOTE端子

- コネクタ : φ2.5mm TRSジャック

オーディオ性能

周波数特性

- 20-20kHz +0.5/-2dB
(LINE IN or MIC IN to LINE OUT, Fs44.1k/48kHz, JEITA)
- 20-40kHz +0.5/-3dB
(LINE IN or MIC IN to LINE OUT, Fs96kHz, JEITA)

歪率

- 0.02%以下
(LINE IN or MIC IN to LINE OUT, Fs44.1k/48k/96kHz, JEITA)

S/N比

- 92dB以上
(LINE IN or MIC IN to LINE OUT, Fs44.1k/48k/96kHz, JEITA)

等価入力雑音

- 120dBu以下
注) JEITA : JEITA CP-2150準拠

第12章 仕様

接続するパソコンの動作条件

最新の対応OS状況については、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) で確認ください。

Windows

Pentium 300MHz以上
128MB以上のMemory
USBポート (推奨: USB2.0)

Mac

Power PC、iMac、G3、G4 266MHz以上
64MB以上のMemory
USBポート (推奨: USB2.0)

推奨USBホストコントローラー

Intel製チップセット

サポートOS

Windows : Windows XP、Windows Vista、
Windows 7、Windows 8 (8.1を含む)
Mac : Mac OS X 10.2以上

一般

電源

単3形電池4本 (アルカリ乾電池またはニッケル水素電池)
パソコンからのUSBバスパワー
専用ACアダプター (TASCAM PS-P515U、別売)
専用外付けバッテリーパック (TASCAM BP-6AA、別売)

消費電力

5.0W (最大時)

消費電流 (USBバスパワー)

1A (最大時)

電池持続時間 (連続使用時)

● アルカリ乾電池 (EVOLTA) 使用時

フォーマット	持続時間	備考
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約6時間00分	XLR/TRS入力(ファントム未使用) 選択時
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約3時間30分	XLR/TRS入力(ファントム使用) 選択時
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約11時間00分	3/4MIC入力 (内蔵マイク) 選択時

● ニッケル水素電池 (eneloop) 使用時

フォーマット	持続時間	備考
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約6時間15分	XLR/TRS入力(ファントム未使用) 選択時
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約3時間15分	XLR/TRS入力(ファントム使用) 選択時
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約10時間30分	3/4MIC入力 (内蔵マイク) 選択時

● ニッケル水素電池 (eneloop-pro) 使用時

フォーマット	持続時間	備考
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約7時間45分	XLR/TRS入力(ファントム未使用) 選択時
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約4時間45分	XLR/TRS入力(ファントム使用) 選択時
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約14時間15分	3/4MIC入力 (内蔵マイク) 選択時

TASCAM BP-6AA (別売) 使用時電池持続時間 (連続使用時)

● アルカリ乾電池 (EVOLTA) + BP-6AA (EVOLTA) 使用時

フォーマット	持続時間	備考
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約13時間00分	XLR/TRS入力(ファントム未使用) 選択時
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約7時間30分	XLR/TRS入力(ファントム使用) 選択時
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約25時間30分	3/4MIC入力 (内蔵マイク) 選択時

● ニッケル水素電池 (eneloop) + BP-6AA (EVOLTA) 使用時

フォーマット	持続時間	備考
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約12時間45分	XLR/TRS入力(ファントム未使用) 選択時
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約7時間45分	XLR/TRS入力(ファントム使用) 選択時
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約24時間45分	3/4MIC入力 (内蔵マイク) 選択時

● ニッケル水素電池 (eneloop-pro) + BP-6AA (EVOLTA) 使用時

フォーマット	持続時間	備考
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約14時間30分	XLR/TRS入力(ファントム未使用) 選択時
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約8時間45分	XLR/TRS入力(ファントム使用) 選択時
2ch WAV、44.1kHz、16bitで録音	約27時間00分	3/4MIC入力 (内蔵マイク) 選択時

×モ

ファントム電源を使用時には、ご使用になるマイクにより持続時間が短くなる場合があります。

外形寸法

169 x 55.2 x 106.5mm

(幅 x 高さ x 奥行き、上部アダプター取り付け状態)

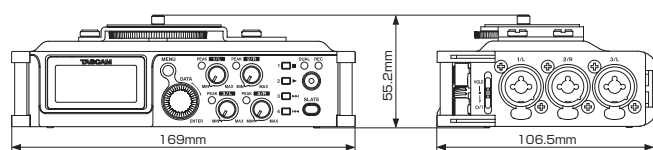
質量

625g / 530g (電池を含む / 電池を含まず)

動作温度

0 ~ 40°C

寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



0570-000-809

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、9:30～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

<http://tascam.jp/>